

令和5年度 痴漢被害実態把握調査

報告書



東京都

目次

I	調査実施要領	3
II	WEB調査（アンケート調査）結果要旨	8
	II-1 痴漢被害・目撃等経験.....	14
	II-2 被害者調査（電車内・駅構内）.....	23
	II-3 第三者調査（電車内・駅構内）.....	56
	II-4 共通設問.....	77
III	ヒアリング調査結果要旨	91
	III-1 痴漢被害経験者ヒアリング.....	93
	III-2 相談支援機関等ヒアリング.....	107
IV	調査結果の考察	119
V	有識者提言	135

I 調査実施要領

調査実施要領

目的

- 痴漢は車両内や駅構内など公共空間での発生が多く、加害者との面識がない割合が高いことから被害の申告をためらう暗数化しやすい犯罪である。
- そこで、若年層を中心に都内の痴漢被害の実態及びその傾向を調査し、その調査結果を踏まえて痴漢被害をなくすための具体的な対策につなげる。

痴漢の定義

- 迷惑防止条例で禁止される下記等の行為。

禁止される行為	内容
痴漢行為 (5条1項1号)	衣服その他の身に着ける物の上から又は直接に人の身体に触れること。 ・ 体を触られた ・ ボタン等を外された ・ 体を密着された ・ 髪を触られた
卑わいな言動 (5条1項3号) の一部	社会通念上、性的道義観念に反する下品でみだらな言語又は動作。 ・ 匂いがかがれた ・ カバン等を押し付けられた ・ 息を吹きかけられた ・ AirDrop等で画像を送られた・見せられた

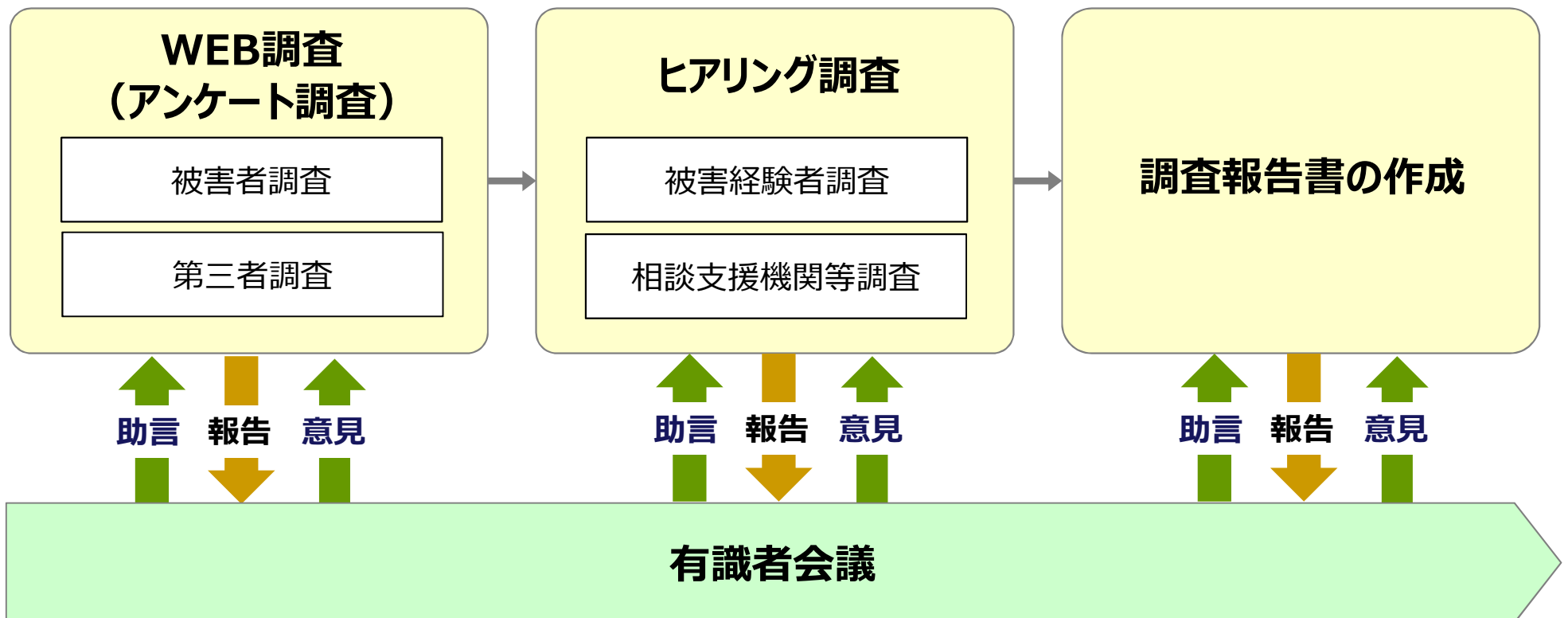
※盗撮行為（5条1項2号）は対象外。

調査実施要領

調査対象

- 都内在住者、在勤者（痴漢被害者については16歳～39歳を対象とする）【WEB調査、ヒアリング調査】
- 相談機関の職員等【ヒアリング調査】

調査項目・フロー



調査実施要領

有識者会議

目的・役割

- 調査設計、調査内容、分析等に関する確認・助言等を得るため、有識者会議を運営する。

メンバー

(五十音順)

氏名	所属・役職
齊藤 章佳 氏	大船榎本クリニック精神保健福祉部長
齋藤 梓 氏	上智大学総合人間科学部心理学科准教授
島田 貴仁 氏	科学警察研究所 犯罪行動科学部 室長

検討事項

日程	議題 (案)
第1回 (7/14)	・ 調査実施内容・方法の確認 ・ WEB調査票の確定
第2回 (8/25・30、9/4)	・ WEB調査結果速報の報告 ・ 中間報告のとりまとめ ・ ヒアリング調査項目の確定
第3回 (10/27・30)	・ ヒアリング調査結果の報告 ・ 施策の検討 ・ 最終報告のとりまとめ

調査実施機関

株式会社リベルタス・コンサルティング

調査実施要領

スケジュール

調査項目	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11
WEB調査	準備	実査	速報	確報	
ヒアリング調査		準備		被害経験者ヒアリング	相談支援機関等ヒアリング
有識者会議	第1回	第2回		第3回	
調査報告書の作成		中間報告		最終報告	データ等

Ⅱ WEB調査（アンケート調査）結果要旨

WEB調査実施要領

WEB調査実施要領

調査依頼 対象	一都三県在住の16～69歳の方	
調査種類	被害者調査	第三者調査
要件	<ul style="list-style-type: none">東京都内在住または東京都に通勤・通学等をする方電車内、駅構内で痴漢にあったことがある方16～39歳	<ul style="list-style-type: none">東京都内在住または東京都に通勤・通学等をする方電車内、駅構内で痴漢を目撃または痴漢の現場に居合わせたことがある方16～69歳
回答数	概ね2,000件	概ね1,000件
スケジュール	2023年8月10日～30日	
備考	統計的正確性を重視した「1次配信」と、仕様等を満たす回答数確保を重視した「2次配信」に分割。	

調査実施要領

1次配信と2次配信

調査区分	1次配信	2次配信
重視事項	統計的な正確さ	仕様の達成、回収数のバランス
配信方法	概ね次ページの割付表の構成比となるように、性別・年齢別の調査協力率も踏まえて配信	1次調査の回収状況を見て、回収が少ない層の回収を増やすために、性別・年齢別に傾斜配信
実施時期	2023年8月10日	2023年8月17日～30日
用途	痴漢経験率等、統計的確かさが重要な項目については、1次配信回答分の結果のみで推計	被害者調査、第三者調査等の対象者別項目については、全回答分（1次+2次配信以降）の結果で分析

調査項目一覧

<p>1) スクリーニング調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○性別・性自認 ○住まい、通勤・通学先 (以下、通勤通学時の電車利用の) ○乗車駅・降車駅 ○乗車時間 ○痴漢被害の有無 (ここ1年/それ以前) ○痴漢目撃等の有無 (ここ1年/それ以前) ○痴漢に遭わないためにしていること ○年齢 ○交通機関利用状況 ○路線 ○混雑度 ○職業・学校 ○乗車頻度 ○車内でしていること ○被害にあった場所 (ここ1年/それ以前/直近) ○被害を目撃等した場所 (直近) ○暮らし、これまでの経験、周りの人との関係
<p>2) 本調査</p>	
<p>A 被害者調査 (電車内・駅構内)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○都内での痴漢被害回数 (ここ1年/それ以前) ○直近の被害の時期 (以下、直近の痴漢被害にあった) ○路線・駅 ○時間帯 ○場所** ○車両内の位置* ○痴漢行為のエスカレートの有無 ○被害が止まった理由 ○被害時の気持ち・状態 ○周囲の人が助けてくれた方法 ○届け出・相談等の有無 (直後、しばらく後) ○連絡した機関名 ○届け出・相談先はどのようなことをしてくれたか ○そのような気持ちになった理由 ○最初の被害時の職業・学校 ○電車の種別* ○移動目的 ○混雑度 ○被害時にしていたこと ○被害に気づいたタイミング ○被害時の対応 ○周囲の人は気づいたか ○助けにより被害が止まったか ○届け出・相談等をしなかった理由 ○当該機関の認知ルート ○本当はどのようにしたかったか ○相談してどのような気持ちになったか ○被害後の心身への影響 ○時期 (月) ○車両の位置* ○その車両に乗車していた理由* ○被害内容 ○気づいた理由 ○対応により被害が止まったか ○気づいた周囲の人の反応 ○周囲の人にどのようにしてほしかったか ○本当はどのようにしたかったか

※ *印は電車内被害者のみ、**印は駅構内被害者のみの設問

調査項目一覧（つづき）

<p>B 第三者調査 (電車内・駅構内)</p>	<p>○都内での痴漢目撃等回数（ここ1年／それ以前） ○直近の目撃等の時期 (以下、直近に痴漢被害を目撃等した)</p> <p>○路線・駅 ○電車の種別* ○時期（月） ○時間帯 ○車両の位置* ○場所** ○混雑度 ○車両内の位置 ○被害内容 ○痴漢行為のエスカレートの有無 ○被害に気づいたタイミング ○痴漢被害の確信の有無 ○目撃等時の行動 ○行動により被害が止まったか ○行動をした理由 ○行動しなかった理由 ○周囲の人の行動 ○周囲の人の行動により被害が止まったか ○届け出・連絡の有無 ○届け出・連絡時に被害者と一緒にいたか ○連絡した機関名 ○当該機関の認知ルート ○本当はどのようにしたかったか ○連絡しなかった理由 ○痴漢被害の帰結</p>
<p>C 共通設問</p>	<p>(防犯アプリ「DigiPolice」について)</p> <p>○認知の有無 ○認知ルート ○ダウンロードの有無 ○ダウンロードしていない理由</p> <p>(痴漢撲滅キャンペーンについて)</p> <p>○認知の有無 ○認知ルート ○効果的なキャンペーン方法 (相談機関について)</p> <p>○認知の有無・認知ルート ○相談機関の印象 ○相談しやすい方法 (「周囲の人が痴漢を防ぐ」という考え方について)</p> <p>○認知の有無 ○認知ルート ○援助に対する考え方 ○痴漢を目撃したら援助行動を取るか ○援助行動に向けて後押しとなる事項 ○痴漢撲滅のために重要な事項 ○効果がありそうな取組 ○東京都の痴漢対策等への意見</p>

調査協力者数

配信・回答者数

- 本アンケートの配信数・回答者数等の詳細は以下の通り。

①配信数	本アンケートを依頼した人数	276,127
②スクリーニング調査参加者数	スクリーニング調査に参加した人数	61,974
③スクリーニング調査回答者数	スクリーニング調査に全問回答した人数 (以下の除外要件に該当する方を除く) ➤ 年齢：15歳以下、70歳以上 ➤ 住まい：東京都以外 かつ 職業：専業主婦・主夫、 無職（東京都に通勤・通学しないと想定できる方） ➤ その他明らかに不誠実な回答	26,402 (うち1次配信分：8,284)
④本調査回答者数	被害者・電車内 被害者・駅構内 第三者・電車内 第三者・駅構内	2,010 209 1,042 312

Ⅱ-1 痴漢被害・目撃等経験

【分析対象】

- スクリーニング調査の配信総数のうち、居住都県別、性別、年代別に、できるだけ人口統計に準じた回答比率になるように配慮して配信した「1次配信」のデータ（n=8,284）を分析対象とした。
- 東京都内在住または東京都に通勤・通学等をする方で、通勤・通学に電車を用いる方のうち、電車内、駅構内で痴漢にあったことがある方（＝被害者）、もしくは電車内、駅構内で痴漢を目撃または痴漢の現場に居合わせたことがある方（＝第三者（目撃・居合わせ者））の比率（被害率、目撃・居合わせ率）を算出した。
- その上で、被害者や第三者の特徴を分析した。

調査票配信状況

配信割付（1次配信）

- 1次配信では、居住都県別、性別、年代別に、できるだけ人口統計に準じた回答者構成となるように留意。
- 一都三県在住者のうち、16～69歳を対象に、SC回答者が概ね下記の構成になるように配慮。
- 居住都県別、性別、年代別に、人口統計に準じたに比率を設定（40～69歳は30%に設定）。性別・年代別の調査協力率を加味して、配信数を決定した。

居住地	性別	年代						計	
		16～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～69歳		
東京都	男性	1.8%	2.8%	3.4%	3.1%	3.3%	5.9%	20.3%	40.1%
	女性	1.7%	2.8%	3.3%	3.0%	3.1%	5.7%	19.7%	
埼玉県	男性	1.1%	1.4%	1.4%	1.4%	1.5%	3.0%	9.8%	19.1%
	女性	1.1%	1.3%	1.3%	1.3%	1.4%	2.8%	9.2%	
千葉県	男性	1.0%	1.1%	1.2%	1.2%	1.3%	2.5%	8.3%	16.1%
	女性	0.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.2%	2.4%	7.8%	
神奈川県	男性	1.4%	1.8%	1.9%	1.8%	2.0%	3.9%	12.8%	24.7%
	女性	1.3%	1.7%	1.7%	1.7%	1.8%	3.7%	12.0%	
計		10.4%	14.0%	15.3%	14.6%	15.7%	30.0%	100.0%	

回答状況

回答状況

- 1次配信の結果、回答者の居住都県別、性別、年代別の構成は下表のとおりとなった。
- 目標（前ページ）と比較して、①居住都県別には東京都の比率が高いがそれ以外の三県のバランスはとれている、②性別には女性がやや多いが、男性等からの回答も4割強得られている、③年代別にはほぼ目標通りのバランスが得られている、との結果となった（①、②については「東京都による痴漢被害実態把握調査」であることも影響していると言える）。
- この結果から、1次配信の回答者構成は、痴漢被害経験率等の統計算出に向けて、一定の信頼度を有するものと判断した。本節では以下、1次配信の回答結果を活用する。

居住地	性別	年代						計
		16～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～69歳	
東京都	男性	1.2%	2.6%	5.2%	4.7%	4.9%	8.4%	66.3%
	女性	5.4%	6.9%	5.5%	5.4%	5.8%	9.6%	
	ノンバイナリー／Xジェンダー	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
埼玉県	男性	0.1%	0.5%	0.6%	0.8%	1.1%	1.8%	11.1%
	女性	0.8%	1.6%	0.9%	0.7%	0.9%	1.2%	
	ノンバイナリー／Xジェンダー	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
千葉県	男性	0.1%	0.4%	0.7%	0.9%	0.8%	1.6%	9.4%
	女性	0.6%	1.4%	0.8%	0.7%	0.6%	0.9%	
	ノンバイナリー／Xジェンダー	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
神奈川県	男性	0.3%	0.7%	0.7%	0.9%	1.0%	2.2%	13.2%
	女性	1.0%	2.1%	1.0%	0.9%	1.0%	1.4%	
	ノンバイナリー／Xジェンダー	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
計		9.6%	16.4%	15.5%	15.2%	16.1%	27.2%	100.0%

※居住都道府県、性別、年齢のすべてに回答いただいた方から、一都三県以外の在住者を除いた8,277名の構成比。

痴漢被害経験①（場所を問わず）

痴漢被害経験（場所を問わず）

- 東京都内在住または東京都に通勤・通学等をする方の被害率（「ある」、「確証はないがおそらくある」の合計）は、ここ1年で8.3%、それ以前で28.2%となっている。
- 上記結果から、生涯経験を算出すると、29.9%となった。

あなたは、次の期間に、痴漢被害にあったことがありますか。

（ここ1年）

ある	366	(4.4%)
確証はないがおそらくある	319	(3.9%)
ない	7599	(91.7%)
合計	8284	(100.0%)

（それ以前）

ある	1608	(19.4%)
確証はないがおそらくある	729	(8.8%)
ない	5947	(71.8%)
合計	8284	(100.0%)

痴漢被害率（場所を問わず）

	回答者数	被害率
生涯経験	2475	29.9%
ここ1年の被害経験	685	8.3%
1年以上前の被害経験	2337	28.2%
回答件数	8284	100.0%

※ここ1年、1年以上前の双方に被害にあった方がいるため、
生涯経験 = ここ1年の被害経験 + 1年以上前の被害経験
とはならない。

痴漢被害経験②（場所を問わず）

痴漢被害率（場所を問わず）内訳

	被害者（人）	母数（人）	遭遇率
全体	2,475	8,284	29.9%
男性	298	3,474	8.6%
女性	2,156	4,750	45.4%
Xジェンダー/ノンバイナリー	20	56	35.7%
その他	1	4	25.0%

痴漢被害経験③（場所を問わず）

痴漢被害場所（場所を問わず）

- ここ1年：電車内84.1%、駅構内9.9%、バス内7.4%の順が多い。
- それ以前：電車内85.6%、路上15.1%、駅構内9.0%の順が多い。
- 直近の場所：電車内81.2%、路上7.9%、駅構内4.9%の順が多い。

それぞれの期間で、痴漢被害にあった場所をお答えください。（複数回答）
【被害経験者の回答】

（ここ1年）

電車内	576	(84.1%)
駅構内	68	(9.9%)
バス内	51	(7.4%)
路上	39	(5.7%)
商業施設・店舗	15	(2.2%)
その他	7	(1.0%)
回答件数	685	

（それ以前）

電車内	2000	(85.6%)
駅構内	210	(9.0%)
バス内	91	(3.9%)
路上	353	(15.1%)
商業施設・店舗	144	(6.2%)
その他	38	(1.6%)
回答件数	2337	

（直近の場所）

電車内	2010	(81.2%)
駅構内	121	(4.9%)
バス内	53	(2.1%)
路上	196	(7.9%)
商業施設・店舗	67	(2.7%)
その他	28	(1.1%)
合計	2475	(100.0%)

痴漢被害・目撃等経験①（電車内・駅構内）

痴漢被害および目撃・居合わせ経験（電車内・駅構内）

- 電車内・駅構内での痴漢被害経験（生涯経験）については、被害経験ありが27.1%となっている。
- また、同じく目撃・居合わせ経験（生涯経験）については、目撃・居合わせ経験ありが11.2%となっている。

電車内・駅構内の被害者の痴漢被害および目撃・居合わせ経験（複数回答）

被害経験あり	2243	(27.1%)
目撃・居合わせ経験あり	931	(11.2%)
被害・目撃等経験なし	5687	(68.7%)
回答件数	8284	

痴漢被害・目撃等経験②（電車内・駅構内）

性・性自認別

- 性・性自認別の被害・目撃等経験（生涯経験）状況は下記のとおり。
 - 被害経験ありは、女性で41.1%、男性で7.8%、ノンバイナリー／Xジェンダーで33.9%となっている。女性で4割超、男性でも10%弱が被害にあっている。また、ノンバイナリー／Xジェンダーの被害も少なくない。
 - 目撃・居合わせ経験ありは、女性で11.7%、男性で10.5%、ノンバイナリー／Xジェンダーで16.1%となっている。目撃・居合わせ経験は、性・性自認別にさほど偏ることなく、10%強となっている。

あなたの性別または性自認をお答えください。

【被害・目撃等経験別】

	全体	被害経験あり	目撃・居合わせ経験あり	被害・目撃等経験なし
全体	8284	2243 (27.1%)	931 (11.2%)	5687 (68.7%)
男性	3474	272 (7.8%)	365 (10.5%)	2958 (85.1%)
女性	4750	1952 (41.1%)	557 (11.7%)	2690 (56.6%)
ノンバイナリー／Xジェンダー	56	19 (33.9%)	9 (16.1%)	35 (62.5%)
その他	4	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (100.0%)

痴漢被害・目撃等経験③（電車内・駅構内）

年代別

- 年代別の被害・目撃等経験（生涯経験）状況は下記のとおり。
 - 被害経験ありは、多くの年代区分で3割前後となっている。
 - 目撃・居合わせ経験ありは、多くの年代区分で1割前後となっている。

あなたの年齢をお答えください。

【被害・目撃等経験別】

	全体	被害経験あり	目撃・居合わせ経験あり	被害・目撃等経験なし
全体	8284	2243 (27.1%)	931 (11.2%)	5687 (68.7%)
19歳以下	793	214 (27.0%)	66 (8.3%)	557 (70.2%)
20～24歳	1361	402 (29.5%)	152 (11.2%)	916 (67.3%)
25～29歳	1281	331 (25.8%)	167 (13.0%)	902 (70.4%)
30～34歳	1263	307 (24.3%)	140 (11.1%)	899 (71.2%)
35～39歳	1335	364 (27.3%)	140 (10.5%)	910 (68.2%)
40～44歳	313	105 (33.5%)	42 (13.4%)	195 (62.3%)
45～49歳	417	140 (33.6%)	54 (12.9%)	260 (62.4%)
50～54歳	487	143 (29.4%)	47 (9.7%)	323 (66.3%)
55～59歳	460	115 (25.0%)	59 (12.8%)	316 (68.7%)
60～64歳	356	76 (21.3%)	35 (9.8%)	258 (72.5%)
65歳以上	218	46 (21.1%)	29 (13.3%)	151 (69.3%)

Ⅱ-2 被害者調査（電車内・駅構内）

【回答者要件】

- 東京都内在住または東京都に通勤・通学等をする方
- 通勤・通学に電車を使っている方
- 電車内、駅構内で痴漢にあったことがある方
- 16～39歳

回答者属性①

性別・性自認

- 電車内の被害（以下、「電車内」）：女性89.7%、男性9.4%、ノンバイナリー/Xジェンダー0.9%と、女性が多い。
- 駅構内の被害（以下、「駅構内」）：女性94.3%、男性3.8%、ノンバイナリー/Xジェンダー1.9%と、女性が多い。

あなたの性別または性自認をお答えください。

【電車内】

男性	188 (9.4%)
女性	1803 (89.7%)
ノンバイナリー/Xジェンダー	19 (0.9%)
その他	0 (0.0%)
合計	2010 (100.0%)

【駅構内】

男性	8 (3.8%)
女性	197 (94.3%)
ノンバイナリー/Xジェンダー	4 (1.9%)
その他	0 (0.0%)
合計	209 (100.0%)

回答者属性②

年齢

- 電車内：19歳以下（11.3%）を除き、各年代区分とも約2割。
- 駅構内：20～24歳（21.5%）、35～39歳（26.8%）の順が多い。19歳以下（7.7%）は少ない。

あなたの年齢をお答えください。

【電車内】

19歳以下	228 (11.3%)
20～24歳	569 (28.3%)
25～29歳	372 (18.5%)
30～34歳	400 (19.9%)
35～39歳	441 (21.9%)
合計	2010 (100.0%)

【駅構内】

19歳以下	16 (7.7%)
20～24歳	45 (21.5%)
25～29歳	49 (23.4%)
30～34歳	43 (20.6%)
35～39歳	56 (26.8%)
合計	209 (100.0%)

回答者属性③

職業・学校

- 電車内：会社員・公務員（55.7%）、大学生・大学院生（18.1%）、パート・アルバイト（9.0%）の順が多い。
- 駅構内：会社員・公務員（54.3%）、大学生・大学院生（13.0%）、パート・アルバイト（12.5%）の順が多い。

あなたの現在の職業・学校をお答えください。

【電車内】

高校生	118 (5.9%)
専門学校生・短大生	40 (2.0%)
大学生・大学院生	363 (18.1%)
会社員・公務員	1117 (55.7%)
パート・アルバイト	181 (9.0%)
自営業・自由業	55 (2.7%)
専業主婦・主夫	70 (3.5%)
無職	44 (2.2%)
その他	17 (0.8%)
合計	2005 (100.0%)

【駅構内】

高校生	10 (4.8%)
専門学校生・短大生	2 (1.0%)
大学生・大学院生	27 (13.0%)
会社員・公務員	111 (53.4%)
パート・アルバイト	26 (12.5%)
自営業・自由業	13 (6.3%)
専業主婦・主夫	16 (7.7%)
無職	2 (1.0%)
その他	1 (0.5%)
合計	208 (100.0%)

痴漢被害の経験①

最初に痴漢被害にあったときの職業・学校

- 電車内：高校生（36.5%）、会社員・公務員（18.9%）、大学生・大学院生（18.8%）の順が多い。
- 駅構内：高校生（31.6%）、会社員・公務員（19.6%）、大学生・大学院生（15.8%）の順が多い。

あなたが最初に痴漢被害を受けたときの所属・職業をお答えください。

【電車内】

小学生	100 (5.0%)
中学生	236 (11.7%)
高校生	733 (36.5%)
専門学校生・短大生	82 (4.1%)
大学生・大学院生	378 (18.8%)
会社員・公務員	380 (18.9%)
パート・アルバイト	59 (2.9%)
自営業・自由業	13 (0.6%)
専業主婦・主夫	8 (0.4%)
無職	17 (0.8%)
その他	3 (0.1%)
合計	2009 (100.0%)

【駅構内】

小学生	18 (8.6%)
中学生	17 (8.1%)
高校生	66 (31.6%)
専門学校生・短大生	5 (2.4%)
大学生・大学院生	33 (15.8%)
会社員・公務員	41 (19.6%)
パート・アルバイト	20 (9.6%)
自営業・自由業	3 (1.4%)
専業主婦・主夫	4 (1.9%)
無職	0 (0.0%)
その他	2 (1.0%)
合計	209 (100.0%)

痴漢被害の経験②

痴漢被害にあった直近の時期

- 電車内：10年以上前（21.9%）、5年～10年以内（19.3%）、3年～5年以内（16.5%）の順が多い。
- 駅構内：10年以上前（22.5%）、1年～3年以内（21.5%）、5年～10年以内（20.1%）の順が多い。

あなたが痴漢被害にあった直近の時期をお答えください。

【電車内】

3か月以内	168 (8.4%)
3か月～半年以内	155 (7.7%)
半年～1年以内	273 (13.6%)
1年～3年以内	256 (12.7%)
3年～5年以内	331 (16.5%)
5年～10年以内	387 (19.3%)
10年以上前	440 (21.9%)
合計	2010 (100.0%)

【駅構内】

3か月以内	14 (6.7%)
3か月～半年以内	12 (5.7%)
半年～1年以内	22 (10.5%)
1年～3年以内	45 (21.5%)
3年～5年以内	27 (12.9%)
5年～10年以内	42 (20.1%)
10年以上前	47 (22.5%)
合計	209 (100.0%)

※以下、直近の痴漢被害経験について回答いただいた結果を示す。

痴漢被害の状況①

痴漢被害にあった時期

- 電車内：7月（15.8%）、6月（15.1%）、5月（14.3%）、4月（11.6%）の順が多い。
- 駅構内：6月（14.8%）、5月（14.4%）、7月（11.5%）、8月（11.5%）の順が多い。

被害にあったおおよその時期についてお答えください。

【電車内】

1月	50 (2.5%)
2月	72 (3.6%)
3月	107 (5.3%)
4月	234 (11.6%)
5月	287 (14.3%)
6月	303 (15.1%)
7月	318 (15.8%)
8月	167 (8.3%)
9月	108 (5.4%)
10月	189 (9.4%)
11月	68 (3.4%)
12月	107 (5.3%)
合計	2010 (100.0%)

【駅構内】

1月	1 (0.5%)
2月	9 (4.3%)
3月	17 (8.1%)
4月	18 (8.6%)
5月	30 (14.4%)
6月	31 (14.8%)
7月	24 (11.5%)
8月	24 (11.5%)
9月	19 (9.1%)
10月	17 (8.1%)
11月	10 (4.8%)
12月	9 (4.3%)
合計	209 (100.0%)

痴漢被害の状況②

痴漢被害にあった時間帯

- 電車内：7：00～8：00（31.9%）、8：00～9：00（17.6%）の朝のラッシュ時間帯が多い。
- 駅構内：8：00～9：00（13.4%）、10：00～12：00（10.5%）の順が多い等、時間帯が多様。

被害にあったおおよその時間帯についてお答えください。

【電車内】

【駅構内】

始発－6：00	13（0.6%）
6：00－7：00	98（4.9%）
7：00－8：00	641（31.9%）
8：00－9：00	354（17.6%）
9：00－10：00	86（4.3%）
10：00－12：00	51（2.5%）
12：00－14：00	44（2.2%）
14：00－16：00	91（4.5%）
16：00－17：00	84（4.2%）
17：00－18：00	86（4.3%）
18：00－19：00	147（7.3%）
19：00－20：00	123（6.1%）
20：00－22：00	122（6.1%）
22：00－終電	70（3.5%）
合計	2010（100.0%）

始発－6：00	1（0.5%）
6：00－7：00	8（3.8%）
7：00－8：00	21（10.0%）
8：00－9：00	28（13.4%）
9：00－10：00	9（4.3%）
10：00－12：00	22（10.5%）
12：00－14：00	13（6.2%）
14：00－16：00	20（9.6%）
16：00－17：00	19（9.1%）
17：00－18：00	18（8.6%）
18：00－19：00	13（6.2%）
19：00－20：00	13（6.2%）
20：00－22：00	15（7.2%）
22：00－終電	9（4.3%）
合計	209（100.0%）

痴漢被害の状況③

痴漢被害にあった車両の位置／場所

- 電車内：真ん中あたりの車両（59.8%）、端の方の車両（29.7%）、一番端の車両（10.6%）の順が多い。
- 駅構内：ホーム（34.9%）、階段・エスカレーター（28.7%）の順が多い。

被害にあったときに乗車していた車両の位置についてお答えください。【電車内】

一番端の車両	213 (10.6%)
端の方の車両（おおむね端から2 - 3両目）	596 (29.7%)
真ん中あたりの車両	1201 (59.8%)
合計	2010 (100.0%)

被害にあった場所についてお答えください。【駅構内】

改札付近	24 (11.5%)
券売所付近	5 (2.4%)
通路	34 (16.3%)
トイレ	7 (3.3%)
ホーム	73 (34.9%)
階段・エスカレーター	60 (28.7%)
エレベーター	2 (1.0%)
その他	4 (1.9%)
合計	209 (100.0%)

痴漢被害の状況④

痴漢被害にあった電車の混雑率※／周りの混雑の程度

- 電車内：200%（29.7%）、180%（19.9%）、150%（14.5%）の順が多い。
- 駅構内：周りがある程度の人があった（46.4%）、ある程度混みあっていた（24.4%）の順が多い。

被害にあったときの電車の混雑率についてお答えください。【電車内】

～100%：ほとんど人がいない	136（6.8%）
～100%：空席が見えるなど空いている	164（8.2%）
100%：定員乗車	203（10.1%）
150%：肩が触れる程度	292（14.5%）
180%：体が触れ合うが新聞は読める	400（19.9%）
200%：体が触れ合い相当な圧迫	596（29.7%）
250%：身動きできない	219（10.9%）
合計	2010（100.0%）

被害にあったときの周りの混雑の程度についてお答えください。【駅構内】

周りにほとんど人はいなかった	34（16.3%）
周りがある程度の人があった（問題なく歩行などが可能）	97（46.4%）
ある程度混みあっていた（体が触れ合う程度）	51（24.4%）
とても混みあっていた（身動きができない程度）	27（12.9%）
合計	209（100.0%）

※混雑率の分類は、国等において作成しているものを参考に、本調査において作成したものである。

痴漢被害の状況⑤

痴漢被害にあったときの乗車車両の位置（なぜその車両か）

- 電車内：特に意図したものではない（35.9%）、乗換駅で、階段などに近い車両（24.6%）、乗車駅で、改札・階段などに一番近い車両（19.9%）の順が多い。
- 女性専用車両では、被害が少ない。

被害にあったときにその車両に乗車していた理由をお答えください。

【電車内】

乗車駅で、改札・階段などに一番近い車両	400 (19.9%)
乗り換え駅で、階段などに近い車両	495 (24.6%)
降車駅で、改札・階段などに一番近い車両	371 (18.5%)
女性専用車両	16 (0.8%)
その他	7 (0.3%)
特に意図したものではない	721 (35.9%)
合計	2010 (100.0%)

痴漢被害の状況⑥

痴漢被害にあったときの車両内の位置

- 電車内：座席の前の通路（23.3%）、ドア付近（開閉が多い側）（23.0%）、ドア付近（開閉が少ない側）（20.8%）、ドアとドアの間のスペース（17.2%）の順が多い。
- 約6割の被害が、ドアとドアの間の空間（ドア付近（開閉が多い側＋開閉が少ない側）とドアとドアの間のスペースの和）において発生している。

被害にあったときに車両内のどこにいたかお答えください。

【電車内】

ドア付近（開閉が多い側）	463（23.0%）
ドア付近（開閉が少ない側）	418（20.8%）
ドアとドアの間のスペース	346（17.2%）
座席の前の通路	469（23.3%）
車両と車両の境目付近	64（3.2%）
座席に座っていた	233（11.6%）
その他	17（0.8%）
合計	2010（100.0%）

痴漢被害の状況⑦

痴漢被害の内容

- 電車内：衣服ごしに体を触られた（63.6%）、体を密着された（40.6%）、衣服の下から体を触られた（直接触られた）（11.1%）の順が多い。
- 駅構内：衣服ごしに体を触られた（54.5%）、髪を触られた（12.0%）、体を密着された（11.5%）の順が多い。

どのような被害にあったかお答えください。（複数回答）

【電車内】

衣服ごしに体を触られた	1278 (63.6%)
衣服の下から体を触られた（直接触られた）	223 (11.1%)
体を密着された	817 (40.6%)
ボタンなどを外された	43 (2.1%)
髪を触られた	84 (4.2%)
匂いがかがれた	119 (5.9%)
息を吹きかけられた	106 (5.3%)
カバンなどを押し付けられた	196 (9.8%)
AirDropなどで画像を送られた・見せられた	75 (3.7%)
その他	112 (5.6%)
回答件数	2010

【駅構内】

衣服ごしに体を触られた	114 (54.5%)
衣服の下から体を触られた（直接触られた）	19 (9.1%)
体を密着された	24 (11.5%)
ボタンなどを外された	8 (3.8%)
髪を触られた	25 (12.0%)
匂いがかがれた	15 (7.2%)
息を吹きかけられた	15 (7.2%)
カバンなどを押し付けられた	14 (6.7%)
AirDropなどで画像を送られた・見せられた	13 (6.2%)
その他	33 (15.8%)
回答件数	209

痴漢被害の状況⑧

痴漢に気づいたタイミング

- 電車内：途中で自分で気づいた（51.1%）、すぐに気づいた（39.7%）の順が多い。
- 駅構内：すぐに気づいた（52.2%）、途中で自分で気づいた（27.3%）の順が多い。

被害にあっていることに、いつ気づきましたか。

【電車内】

すぐに気づいた	797 (39.7%)
途中で自分で気づいた	1028 (51.1%)
周囲の人に言われて気づいた	47 (2.3%)
後から気づいた	138 (6.9%)
合計	2010 (100.0%)

【駅構内】

すぐに気づいた	109 (52.2%)
途中で自分で気づいた	57 (27.3%)
周囲の人に言われて気づいた	22 (10.5%)
後から気づいた	21 (10.0%)
合計	209 (100.0%)

痴漢被害の状況⑨

痴漢被害にあっていることに途中から気がついた理由

- 電車内：最初は、偶然・気のせいだと思っていたから（81.5%）、繰り返されたから（24.6%）の順が多い。
- 駅構内：最初は、偶然・気のせいだと思っていたから（57.9%）、繰り返されたから（35.1%）の順が多い。

被害にあっていることに、途中から気がついた理由をお答えください。（複数回答）

【電車内】

最初は、偶然・気のせいだと思っていたから	838 (81.5%)
繰り返しされたから	271 (26.4%)
途中からエスカレートしたから	100 (9.7%)
その他	24 (2.3%)
回答件数	1028

【駅構内】

最初は、偶然・気のせいだと思っていたから	33 (57.9%)
繰り返しされたから	20 (35.1%)
途中からエスカレートしたから	10 (17.5%)
その他	0 (0.0%)
回答件数	57

痴漢被害の状況⑩

痴漢が止まった理由

- 電車内：自分の目的地に着いた（降りた）（38.9%）、人の乗り降りで距離が離れた（21.9%）、加害者（痴漢）がどこかにいった（降りた）（19.4%）、あなたが痴漢行為をやめさせた（15.2%）の順が多い。
- 駅構内：あなたがその場所を離れた（42.4%）、加害者（痴漢）がどこかにいった（37.9%）、あなたが痴漢行為をやめさせた（10.8%）の順が多い。

被害が止まった理由をお答えください。（複数回答）

【電車内】

あなたが痴漢行為をやめさせた	302 (15.2%)
周囲の人が痴漢行為をやめさせた	56 (2.8%)
自分の目的地に着いた（降りた）	773 (38.9%)
人の乗り降りで距離が離れた	436 (21.9%)
加害者（痴漢）がどこかにいった（降りた）	386 (19.4%)
混雑が解消した	163 (8.2%)
その他	144 (7.2%)
回答件数	1989

【駅構内】

あなたが痴漢行為をやめさせた	22 (10.8%)
周囲の人が痴漢行為をやめさせた	14 (6.9%)
加害者（痴漢）がどこかにいった	77 (37.9%)
あなたがその場所を離れた	86 (42.4%)
混雑が解消した	17 (8.4%)
その他	12 (5.9%)
回答件数	203

痴漢被害の状況⑪

痴漢被害にあったときに行った対応

- 電車内：我慢した・何もできなかった（40.7%）、逃げた・移動した（20.8%）、身体を動かして加害者（痴漢）を止めようとした（17.6%）、持ち物でブロックした（14.3%）の順が多い。
- 駅構内：逃げた・移動した（37.7%）、我慢した・なにもできなかった（24.6%）、持ち物でブロックした（15.5%）、加害者をにらんだ（15.0%）の順が多い。

被害にあったときにあなたが行った対応をお答えください。（複数回答）

【電車内】

我慢した・なにもできなかった	812 (40.7%)
逃げた・移動した	414 (20.8%)
周囲にアプリを使用して助けを求めた	28 (1.4%)
周囲に目配せや合図をした	59 (3.0%)
周囲に対して声を出して助けを求めた	47 (2.4%)
持ち物でブロックした	286 (14.3%)
身体を動かして加害者（痴漢）を止めようとした	352 (17.6%)
加害者（痴漢）をにらんだ	254 (12.7%)
加害者（痴漢）の手をつかんだ・はらった・声を出した	167 (8.4%)
その他	77 (3.9%)
回答件数	1995

【駅構内】

我慢した・なにもできなかった	51 (24.6%)
逃げた・移動した	78 (37.7%)
周囲にアプリを使用して助けを求めた	13 (6.3%)
周囲に目配せや合図をした	17 (8.2%)
周囲に対して声を出して助けを求めた	11 (5.3%)
持ち物でブロックした	32 (15.5%)
身体を動かして加害者（痴漢）を止めようとした	19 (9.2%)
加害者（痴漢）をにらんだ	31 (15.0%)
加害者（痴漢）の手をつかんだ・はらった・声を出した	21 (10.1%)
その他	9 (4.3%)
回答件数	207

痴漢被害の状況⑫

行った対応により痴漢が止まったか

- 電車内：止まった（71.7%）、止まらなかった（28.3%）となっている。
- 駅構内：止まった（80.8%）、止まらなかった（19.2%）となっている。

あなたが行った対応によって被害が止まったかお答えください。

【電車内】

止まった	848 (71.7%)
止まらなかった	335 (28.3%)
合計	1183 (100.0%)

【駅構内】

止まった	126 (80.8%)
止まらなかった	30 (19.2%)
合計	156 (100.0%)

痴漢被害の状況⑬

痴漢被害にあったときの気持ちや状態

- 電車内：驚いた（53.8%）、怖かった（45.4%）、怒りを感じた・反撃したいと思った（30.7%）、逃げたいと思った（24.1%）、身体が動かなかった・声が出なかった（22.6%）の順が多い。
- 駅構内：驚いた（55.0%）、怖かった（42.1%）、怒りを感じた・反撃したいと思った（34.4%）、身体が動かなかった・声が出なかった（21.5%）の順が多い。

痴漢被害を受けた時のあなたの気持ちや状態についてお答えください。（複数回答）

【電車内】

驚いた	1081 (53.8%)
怖かった	912 (45.4%)
恥ずかしいと思った	192 (9.6%)
怒りを感じた・反撃したいと思った	618 (30.7%)
身体が動かなかった・声が出なかった	455 (22.6%)
自分がどこか遠くにいる感じがした	57 (2.8%)
周りの人に気づかれなくなかった	111 (5.5%)
どうすればよいか冷静に考えた	269 (13.4%)
混んでいて身動きが取れなかった	396 (19.7%)
逃げたいと思った	484 (24.1%)
誰かに助けを求めたいと思った	219 (10.9%)
少し我慢すれば目的地につくと思った ／少し我慢すれば終わると思った	322 (16.0%)
いつものことだと思った	66 (3.3%)
たいしたことがないと思った	107 (5.3%)
痴漢だと気づいていなかった	108 (5.4%)
その他	66 (3.3%)
回答件数	2010

【駅構内】

驚いた	115 (55.0%)
怖かった	88 (42.1%)
恥ずかしいと思った	29 (13.9%)
怒りを感じた・反撃したいと思った	72 (34.4%)
身体が動かなかった・声が出なかった	45 (21.5%)
自分がどこか遠くにいる感じがした	16 (7.7%)
周りの人に気づかれなくなかった	14 (6.7%)
どうすればよいか冷静に考えた	21 (10.0%)
混んでいて身動きが取れなかった	14 (6.7%)
逃げたいと思った	31 (14.8%)
誰かに助けを求めたいと思った	24 (11.5%)
少し我慢すれば目的地につくと思った ／少し我慢すれば終わると思った	15 (7.2%)
いつものことだと思った	8 (3.8%)
たいしたことがないと思った	13 (6.2%)
痴漢だと気づいていなかった	14 (6.7%)
その他	5 (2.4%)
回答件数	209

周囲の人の対応①

周囲の人は痴漢被害に気づいたか

- 電車内：はい（8.6%）、いいえ（49.1%）、わからない（42.3%）となっている。
- 駅構内：はい（14.2%）、いいえ（51.0%）、わからない（34.8%）となっている。

周囲にいた人はあなたの被害に気が付きましたか。

【電車内】

はい	171 (8.6%)
いいえ	980 (49.1%)
わからない	843 (42.3%)
合計	1994 (100.0%)

【駅構内】

はい	29 (14.2%)
いいえ	104 (51.0%)
わからない	71 (34.8%)
合計	204 (100.0%)

周囲の人の対応②

周囲の人の反応

- 電車内：助けてくれた（56.1%）が多い。
- 駅構内：助けてくれた（65.5%）が多い。

あなたの被害に気づいた周囲にいた人の反応についてお答えください。

【電車内】

助けてくれた	96 (56.1%)
助けてくれなかった	54 (31.6%)
わからない	21 (12.3%)
合計	171 (100.0%)

【駅構内】

助けてくれた	19 (65.5%)
助けてくれなかった	8 (27.6%)
わからない	2 (6.9%)
合計	29 (100.0%)

周囲の人の対応③

周囲の人が助けてくれた方法

- 電車内：直接加害者（痴漢）の行為を止めてくれた（44.8%）、私に声をかけてくれた（41.7%）、加害者（痴漢）と引き離してくれた（37.5%）の順が多い。
- 駅構内：回答数が少ないことに留意が必要だが、私に声をかけてくれた（52.6%）、直接加害者（痴漢）の行為を止めてくれた（47.4%）の順が多い。

周囲にいた人はあなたをどのような方法で助けてくれましたか。（複数回答）

【電車内】

直接加害者（痴漢）の行為を止めてくれた	43 (44.8%)
加害者（痴漢）と引き離してくれた	36 (37.5%)
私に声をかけてくれた	40 (41.7%)
周りに伝えてくれた	10 (10.4%)
一緒に降りてくれた	16 (16.7%)
その他	2 (2.1%)
回答件数	96

【駅構内】

直接加害者（痴漢）の行為を止めてくれた	9 (47.4%)
加害者（痴漢）と引き離してくれた	5 (26.3%)
私に声をかけてくれた	10 (52.6%)
周りに伝えてくれた	4 (21.1%)
一緒に降りてくれた	0 (0.0%)
その他	0 (0.0%)
回答件数	19

周囲の人の対応④

周囲の人の対応により痴漢が止まったか

- 電車内：止まった（92.7%）、止まらない（7.3%）となっている。
- 駅構内：回答数が少ないことに留意が必要だが、止まったが94.7%となっている。

周囲にいた人が行った対応によって被害が止まったかお答えください。

【電車内】

止まった	89 (92.7%)
止まらなかった	7 (7.3%)
合計	96 (100.0%)

【駅構内】

止まった	18 (94.7%)
止まらなかった	1 (5.3%)
合計	19 (100.0%)

周囲の人の対応⑤

周囲の人にしてほしかったこと

- 電車内：周りの人が助けてくれることには期待していない（43.5%）、痴漢している人を止めてほしかった（31.0%）、自分で解決する問題だと思った（21.0%）、痴漢から自分を守ってほしかった（20.0%）の順が多い。
- 駅構内：周りの人が助けてくれることには期待していない（45.9%）、痴漢している人を止めてほしかった（31.6%）、自分で解決する問題だと思った（16.3%）、痴漢から自分を守ってほしかった（14.4%）の順が多い。

周囲にいた人に対してどのようにしてほしかったかお答えください。（複数回答）

【電車内】

痴漢から自分を守ってほしかった	401 (20.0%)
痴漢している人を止めてほしかった	623 (31.0%)
気づかれなくてよかった	256 (12.7%)
周りの人が助けてくれることには期待していない	875 (43.5%)
自分で解決する問題だと思った	423 (21.0%)
その他	39 (1.9%)
回答件数	2010

【駅構内】

痴漢から自分を守ってほしかった	30 (14.4%)
痴漢している人を止めてほしかった	66 (31.6%)
気づかれなくてよかった	22 (10.5%)
周りの人が助けてくれることには期待していない	96 (45.9%)
自分で解決する問題だと思った	34 (16.3%)
その他	7 (3.3%)
回答件数	209

届け出・連絡・相談状況①

届け出・連絡・相談状況（被害にあったときかその直後）

- 電車内：被害直後は誰にも連絡などしていないは62.4%。届け出・連絡・相談者は、恋人・友人・知人（21.0%）、家族（13.5%）、駅職員（6.2%）、警察（3.7%）、学校の先生（3.0%）、職場の同僚（2.5%）の順が多い。
- 駅構内：被害直後は誰にも連絡などしていないは45.9%。届け出・連絡・相談者は、恋人・友人・知人（21.1%）、家族（18.7%）、駅職員（9.6%）、警察（9.1%）、職場の同僚（5.3%）の順が多い。

あなたは被害にあった時かその直後（降車後すぐに、または、その場で）に次のような人や機関に届け出・連絡・相談をしましたか。（複数回答）

【電車内】

駅職員	125 (6.2%)
警察	74 (3.7%)
相談機関	34 (1.7%)
家族	271 (13.5%)
恋人・友人・知人	423 (21.0%)
学校の先生	61 (3.0%)
職場の同僚	50 (2.5%)
職場の上司	23 (1.1%)
その他の機関・人	4 (0.2%)
被害直後は誰にも連絡などしていない	1254 (62.4%)
回答件数	2010

【駅構内】

駅職員	20 (9.6%)
警察	19 (9.1%)
相談機関	14 (6.7%)
家族	39 (18.7%)
恋人・友人・知人	44 (21.1%)
学校の先生	10 (4.8%)
職場の同僚	11 (5.3%)
職場の上司	3 (1.4%)
その他の機関・人	1 (0.5%)
被害直後は誰にも連絡などしていない	96 (45.9%)
回答件数	209

届け出・連絡・相談状況②

届け出・連絡・相談状況（被害のしばらく後）

- 電車内：被害のしばらく後は誰にも連絡などしていないは71.3%。届け出・連絡・相談者は、恋人・友人・知人（15.1%）、家族（9.9%）、駅職員（3.7%）、警察（3.3%）の順が多い。
- 駅構内：被害のしばらく後は誰にも連絡などしていないは56.9%。届け出・連絡・相談者は、恋人・友人・知人（19.6%）、家族（19.1%）の順が多い。

あなたは被害のしばらく後（通勤・通学先や帰宅後、翌日以降など）に次のような人や機関に届け出・連絡・相談をしましたか。（複数回答）

【電車内】

駅職員	75 (3.7%)
警察	67 (3.3%)
相談機関	34 (1.7%)
家族	199 (9.9%)
恋人・友人・知人	303 (15.1%)
学校の先生	39 (1.9%)
職場の同僚	39 (1.9%)
職場の上司	25 (1.2%)
その他の機関・人	4 (0.2%)
被害のしばらく後は誰にも連絡などしていない	1434 (71.3%)
回答件数	2010

【駅構内】

駅職員	9 (4.3%)
警察	14 (6.7%)
相談機関	8 (3.8%)
家族	40 (19.1%)
恋人・友人・知人	41 (19.6%)
学校の先生	12 (5.7%)
職場の同僚	9 (4.3%)
職場の上司	3 (1.4%)
その他の機関・人	0 (0.0%)
被害のしばらく後は誰にも連絡などしていない	119 (56.9%)
回答件数	209

届け出・連絡・相談状況③

届け出・連絡・相談しなかった理由（直後）

- 電車内：めんどうだったから（46.2%）、時間がなかったから（遅刻など）（28.6%）、痴漢か確信が持たなかった／勘違いだったら恥ずかしい（19.2%）、犯人が捕まらないと思ったから（19.1%）の順が多い。
- 駅構内：めんどうだったから（37.5%）、時間がなかったから（遅刻など）（31.3%）、大したことではなかったから（25.0%）の順が多い。

被害後、誰にも届け出・連絡・相談をしなかった理由をお答えください（直後）。（複数回答）

【電車内】

めんどうだったから	579 (46.2%)
時間がなかったから（遅刻など）	359 (28.6%)
ショックで何も考えられなかったから	170 (13.6%)
恥ずかしかったから	176 (14.0%)
家族などに心配をかけたくなかったから	188 (15.0%)
他人に知られたくなかったから	159 (12.7%)
相手から嫌なことを言われそうだったから	41 (3.3%)
犯人が捕まらないと思ったから	240 (19.1%)
逆恨みが怖かったから	71 (5.7%)
痴漢か確信が持てなかった／勘違いだったら恥ずかしい	241 (19.2%)
大したことではなかったから	200 (15.9%)
どのような相談機関があるのか不明だったから	107 (8.5%)
相談機関の連絡先がわからなかったから	98 (7.8%)
その他	36 (2.9%)
回答件数	1254

【駅構内】

めんどうだったから	36 (37.5%)
時間がなかったから（遅刻など）	30 (31.3%)
ショックで何も考えられなかったから	11 (11.5%)
恥ずかしかったから	9 (9.4%)
家族などに心配をかけたくなかったから	14 (14.6%)
他人に知られたくなかったから	7 (7.3%)
相手から嫌なことを言われそうだったから	6 (6.3%)
犯人が捕まらないと思ったから	21 (21.9%)
逆恨みが怖かったから	5 (5.2%)
痴漢か確信が持てなかった／勘違いだったら恥ずかしい	21 (21.9%)
大したことではなかったから	24 (25.0%)
どのような相談機関があるのか不明だったから	9 (9.4%)
相談機関の連絡先がわからなかったから	9 (9.4%)
その他	6 (6.3%)
回答件数	96

届け出・連絡・相談状況④

届け出・連絡・相談しなかった理由（しばらく後）

- 電車内：めんどうだったから（45.7%）、犯人が捕まらないと思ったから（20.4%）、大したことではなかったから（17.8%）、痴漢か確信が持てなかった/勘違いだったら恥ずかしい（16.2%）の順が多い。
- 駅構内：電車内：めんどうだったから（37.0%）、犯人が捕まらないと思ったから（30.3%）、大したことではなかったから（25.2%）の順が多い。

被害後、誰にも届け出・連絡・相談をしなかった理由をお答えください（しばらく後）。（複数回答）

【電車内】

めんどうだったから	656 (45.7%)
時間がなかったから（遅刻など）	188 (13.1%)
ショックで何も考えられなかったから	108 (7.5%)
恥ずかしかったから	161 (11.2%)
家族などに心配をかけたくなかったから	208 (14.5%)
他人に知られたくなかったから	173 (12.1%)
相手から嫌なことを言われそうだったから	39 (2.7%)
犯人が捕まらないと思ったから	292 (20.4%)
逆恨みが怖かったから	72 (5.0%)
痴漢か確信が持てなかった/勘違いだったら恥ずかしい	232 (16.2%)
大したことではなかったから	255 (17.8%)
どのような相談機関があるのか不明だったから	147 (10.3%)
相談機関の連絡先がわからなかったから	143 (10.0%)
その他	38 (2.6%)
回答件数	1434

【駅構内】

めんどうだったから	44 (37.0%)
時間がなかったから（遅刻など）	16 (13.4%)
ショックで何も考えられなかったから	5 (4.2%)
恥ずかしかったから	8 (6.7%)
家族などに心配をかけたくなかったから	18 (15.1%)
他人に知られたくなかったから	10 (8.4%)
相手から嫌なことを言われそうだったから	7 (5.9%)
犯人が捕まらないと思ったから	36 (30.3%)
逆恨みが怖かったから	10 (8.4%)
痴漢か確信が持てなかった/勘違いだったら恥ずかしい	18 (15.1%)
大したことではなかったから	30 (25.2%)
どのような相談機関があるのか不明だったから	17 (14.3%)
相談機関の連絡先がわからなかったから	12 (10.1%)
その他	7 (5.9%)
回答件数	119

届け出・連絡・相談状況⑤

連絡した機関名

- 電車内：回答件数が少ないことに留意が必要だが、東京ウィメンズプラザが35.4%、東京都女性相談センターが27.1%となっている。
- 駅構内：回答件数が少ないことに留意が必要だが、東京都女性相談センターが50.0%、警視庁総合相談センターが43.8%となっている。

連絡した機関名についてお答えください。（複数回答）

【電車内】

性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター	11 (22.9%)
東京都若者総合相談センター（若ナビα）	10 (20.8%)
東京ウィメンズプラザ	17 (35.4%)
東京都女性相談センター	13 (27.1%)
警視庁総合相談センター	9 (18.8%)
性犯罪被害相談電話（ハートさん）	2 (4.2%)
弁護士	3 (6.3%)
その他	1 (2.1%)
回答件数	48

【駅構内】

性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター	1 (6.3%)
東京都若者総合相談センター（若ナビα）	4 (25.0%)
東京ウィメンズプラザ	6 (37.5%)
東京都女性相談センター	8 (50.0%)
警視庁総合相談センター	7 (43.8%)
性犯罪被害相談電話（ハートさん）	1 (6.3%)
弁護士	0 (0.0%)
その他	0 (0.0%)
回答件数	16

届け出・連絡・相談状況⑥

その機関を知った理由

- 電車内：回答件数が少ないことに留意が必要だが、その場で調べた（49.0%）、被害後に調べた（29.4%）が多くなっている。
- 駅構内：回答件数が少ないことに留意が必要だが、その場で調べた（33.3%）、周囲にポスターなどがあつた（27.8%）、被害後に調べた（27.8%）等の回答がみられる。

どのようにその機関を知ったかお答えください。（複数回答）

【電車内】

知っていた	5 (9.8%)
周囲にポスターなどがあつた	10 (19.6%)
その場で調べた	25 (49.0%)
被害後に調べた	15 (29.4%)
以前に利用したことがあつた	7 (13.7%)
周囲の人が連絡をした	2 (3.9%)
その他	0 (0.0%)
回答件数	51

【駅構内】

知っていた	1 (5.6%)
周囲にポスターなどがあつた	5 (27.8%)
その場で調べた	6 (33.3%)
被害後に調べた	5 (27.8%)
以前に利用したことがあつた	4 (22.2%)
周囲の人が連絡をした	2 (11.1%)
その他	0 (0.0%)
回答件数	18

届け出・連絡・相談状況⑦

被害直後、どうしたかったか

- 電車内：特に何もしたくなかった（58.1%）、気軽に届け出る・連絡する方法があれば何かしたかった（21.7%）、警察に届け出たかった（13.4%）の順が多い。
- 駅構内：回答件数が少ないことに留意が必要だが、特に何もしたくなかった（43.8%）、気軽に届け出る・連絡する方法があれば何かしたかった（26.0%）、警察に届け出たかった（22.9%）の順が多い。

被害直後、本当はどのようにしたかったかお答えください。（複数回答）

【電車内】

駅職員に届け出たかった	154 (12.3%)
警察に届け出たかった	168 (13.4%)
相談機関に連絡したかった	53 (4.2%)
匿名で行政の相談窓口で連絡・相談したかった	72 (5.7%)
気軽に届け出る・連絡する方法があれば何かしたかった	272 (21.7%)
その他	34 (2.7%)
特に何もしたくなかった	729 (58.1%)
回答件数	1254

【駅構内】

駅職員に届け出たかった	17 (17.7%)
警察に届け出たかった	22 (22.9%)
相談機関に連絡したかった	0 (0.0%)
匿名で行政の相談窓口で連絡・相談したかった	7 (7.3%)
気軽に届け出る・連絡する方法があれば何かしたかった	25 (26.0%)
その他	3 (3.1%)
特に何もしたくなかった	42 (43.8%)
回答件数	96

届け出・連絡・相談状況⑧

相談した結果、どのような気持ちになったか

- 電車内：気持ちが楽になった（63.2%）、何も変わらなかった（26.5%）、話さなければよかった（7.1%）、むしろつらくなった（5.8%）となっている。
- 駅構内：気持ちが楽になった（49.2%）、何も変わらなかった（28.5%）、話さなければよかった（15.4%）、むしろつらくなった（8.5%）となっている。

相談した結果、どのような気持ちになったかお答えください。（複数回答）

【電車内】

気持ちが楽になった	571 (63.2%)
むしろつらくなった	52 (5.8%)
話さなければよかった	64 (7.1%)
何も変わらなかった	240 (26.5%)
その他	10 (1.1%)
回答件数	904

【駅構内】

気持ちが楽になった	64 (49.2%)
むしろつらくなった	11 (8.5%)
話さなければよかった	20 (15.4%)
何も変わらなかった	37 (28.5%)
その他	2 (1.5%)
回答件数	130

痴漢被害の心身への影響

痴漢被害の心身への影響

- 電車内：特に心身への影響はなかった（61.4%）、フラッシュバックすることがある（14.1%）、電車に乗れなくなった／駅構内にいるのが怖くなった（13.2%）の順が多い。
- 駅構内：特に心身への影響はなかった（50.2%）、加害者（痴漢）と同じ性別の人を避けるようになった（15.8%）、フラッシュバックすることがある（14.4%）、電車に乗れなくなった／駅構内にいるのが怖くなった（14.4%）の順が多い。

被害後の心身への影響について、あてはまるものをお答えください。（複数回答）

【電車内】

フラッシュバックすることがある	283 (14.1%)
眠れなくなった	57 (2.8%)
電車に乗れなくなった／駅構内（ホームなど）にいるのが怖くなった	266 (13.2%)
外に出られなくなった	42 (2.1%)
自分に価値がないと感じるようになった	53 (2.6%)
死にたい・消えたい気持ちになった	49 (2.4%)
加害者（痴漢）と同じ性別の人を避けるようになった	194 (9.7%)
人間不信になった	168 (8.4%)
社会が信じられなくなった	118 (5.9%)
うつ病やパニック障害と診断された	17 (0.8%)
P T S Dと診断された	7 (0.3%)
その他	47 (2.3%)
特に心身への影響はなかった	1235 (61.4%)
回答件数	2010

【駅構内】

フラッシュバックすることがある	30 (14.4%)
眠れなくなった	11 (5.3%)
電車に乗れなくなった／駅構内（ホームなど）にいるのが怖くなった	30 (14.4%)
外に出られなくなった	4 (1.9%)
自分に価値がないと感じるようになった	18 (8.6%)
死にたい・消えたい気持ちになった	14 (6.7%)
加害者（痴漢）と同じ性別の人を避けるようになった	33 (15.8%)
人間不信になった	28 (13.4%)
社会が信じられなくなった	23 (11.0%)
うつ病やパニック障害と診断された	4 (1.9%)
P T S Dと診断された	3 (1.4%)
その他	10 (4.8%)
特に心身への影響はなかった	105 (50.2%)
回答件数	209

Ⅱ-3 第三者調査（電車内・駅構内）

【回答者要件】

- 東京都内在住または東京都に通勤・通学等をする方
- 通勤・通学に電車を使っている方
- 電車内、駅構内で痴漢を目撃または痴漢の現場に居合わせたことがある方
- 16～69歳

回答者属性①

性別・性自認

- 電車内：男性35.9%、女性63.1%、ノンバイナリー/Xジェンダー1.1%となっている。
- 駅構内：男性42.9%、女性56.7%、ノンバイナリー/Xジェンダー0.3%となっている。

あなたの性別または性自認をお答えください。

【電車内】

男性	374 (35.9%)
女性	657 (63.1%)
ノンバイナリー/Xジェンダー	11 (1.1%)
その他	0 (0.0%)
合計	1042 (100.0%)

【駅構内】

男性	134 (42.9%)
女性	177 (56.7%)
ノンバイナリー/Xジェンダー	1 (0.3%)
その他	0 (0.0%)
合計	312 (100.0%)

回答者属性②

年齢

- 電車内：20～39歳までの年代区分は1～2割、その他の年代区分は4～6%台となっている（概ね、SC調査回答者の年代区分と同様の分布を示している）。
- 駅構内：25～39歳までの年代区分は1～2割、その他の年代区分は2～8%台となっている。

あなたの年齢をお答えください。

【電車内】

19歳以下	61 (5.9%)
20～24歳	182 (17.5%)
25～29歳	153 (14.7%)
30～34歳	172 (16.5%)
35～39歳	185 (17.8%)
40～44歳	46 (4.4%)
45～49歳	55 (5.3%)
50～54歳	46 (4.4%)
55～59歳	70 (6.7%)
60～64歳	38 (3.6%)
65歳以上	34 (3.3%)
合計	1042 (100.0%)

【駅構内】

19歳以下	9 (2.9%)
20～24歳	27 (8.7%)
25～29歳	50 (16.0%)
30～34歳	41 (13.1%)
35～39歳	73 (23.4%)
40～44歳	22 (7.1%)
45～49歳	20 (6.4%)
50～54歳	22 (7.1%)
55～59歳	25 (8.0%)
60～64歳	15 (4.8%)
65歳以上	8 (2.6%)
合計	312 (100.0%)

回答者属性③

職業・学校

- 電車内：会社員・公務員（65.7%）、大学生・大学院生（11.4%）、パート・アルバイト（7.2%）の順が多い。
- 駅構内：会社員・公務員（67.5%）、パート・アルバイト（12.5%）、大学生・大学院生（6.1%）の順が多い。

あなたの現在の職業・学校をお答えください。

【電車内】

高校生	30 (2.9%)
専門学校生・短大生	11 (1.1%)
大学生・大学院生	119 (11.4%)
会社員・公務員	683 (65.7%)
パート・アルバイト	75 (7.2%)
自営業・自由業	51 (4.9%)
専業主婦・主夫	33 (3.2%)
無職	33 (3.2%)
その他	5 (0.5%)
合計	1040 (100.0%)

【駅構内】

高校生	6 (1.9%)
専門学校生・短大生	4 (1.3%)
大学生・大学院生	19 (6.1%)
会社員・公務員	210 (67.5%)
パート・アルバイト	39 (12.5%)
自営業・自由業	16 (5.1%)
専業主婦・主夫	10 (3.2%)
無職	4 (1.3%)
その他	3 (1.0%)
合計	311 (100.0%)

痴漢目撃・居合わせの経験

目撃した／居合わせた直近の時期

- 電車内：10年以上前（22.8%）、半年～1年以内（17.1%）、5年～10年以内（13.5%）の順が多い。
- 駅構内：10年以上前（23.4%）、3年～5年以内（19.6%）、5年～10年以内（19.2%）の順が多い。

あなたが痴漢被害を目撃した/居合わせた直近の時期をお答えください。

【電車内】

3か月以内	90 (8.6%)
3か月～半年以内	105 (10.1%)
半年～1年以内	178 (17.1%)
1年～3年以内	150 (14.4%)
3年～5年以内	140 (13.4%)
5年～10年以内	141 (13.5%)
10年以上前	238 (22.8%)
合計	1042 (100.0%)

【駅構内】

3か月以内	10 (3.2%)
3か月～半年以内	26 (8.3%)
半年～1年以内	34 (10.9%)
1年～3年以内	48 (15.4%)
3年～5年以内	61 (19.6%)
5年～10年以内	60 (19.2%)
10年以上前	73 (23.4%)
合計	312 (100.0%)

※以下、直近の痴漢目撃・居合わせ経験について回答いただいた結果を示す。

痴漢目撃・居合わせの状況①

目撃した／居合わせた時期

- 電車内：5月（15.1%）、4月（13.7%）、6月（13.6%）、7月（13.0%）の順が多い。
- 駅構内：5月（15.7%）、6月（14.4%）、7月（11.2%）の順が多い。

目撃した/居合わせたおおよその時期についてお答えください。

【電車内】

1月	25 (2.4%)
2月	34 (3.3%)
3月	73 (7.0%)
4月	143 (13.7%)
5月	157 (15.1%)
6月	142 (13.6%)
7月	135 (13.0%)
8月	106 (10.2%)
9月	59 (5.7%)
10月	87 (8.3%)
11月	34 (3.3%)
12月	47 (4.5%)
合計	1042 (100.0%)

【駅構内】

1月	13 (4.2%)
2月	7 (2.2%)
3月	29 (9.3%)
4月	32 (10.3%)
5月	49 (15.7%)
6月	45 (14.4%)
7月	35 (11.2%)
8月	31 (9.9%)
9月	19 (6.1%)
10月	32 (10.3%)
11月	7 (2.2%)
12月	13 (4.2%)
合計	312 (100.0%)

痴漢目撃・居合わせの状況②

目撃した／居合わせた時間帯

- 電車内：7：00～8：00（29.8％）、8：00～9：00（18.7％）の順で、朝のラッシュ時間帯が多い。
- 駅構内：7：00～8：00（22.1％）、8：00～9：00（21.8％）の順で、朝のラッシュ時間帯が多い。

目撃した/居合わせたおおよその時間帯についてお答えください。

【電車内】

始発－6：00	5（0.5％）
6：00－7：00	30（2.9％）
7：00－8：00	311（29.8％）
8：00－9：00	195（18.7％）
9：00－10：00	51（4.9％）
10：00－12：00	33（3.2％）
12：00－14：00	23（2.2％）
14：00－16：00	54（5.2％）
16：00－17：00	40（3.8％）
17：00－18：00	48（4.6％）
18：00－19：00	75（7.2％）
19：00－20：00	58（5.6％）
20：00－22：00	86（8.3％）
22：00－終電	33（3.2％）
合計	1042（100.0％）

【駅構内】

始発－6：00	3（1.0％）
6：00－7：00	7（2.2％）
7：00－8：00	69（22.1％）
8：00－9：00	68（21.8％）
9：00－10：00	11（3.5％）
10：00－12：00	16（5.1％）
12：00－14：00	17（5.4％）
14：00－16：00	23（7.4％）
16：00－17：00	14（4.5％）
17：00－18：00	18（5.8％）
18：00－19：00	19（6.1％）
19：00－20：00	19（6.1％）
20：00－22：00	18（5.8％）
22：00－終電	10（3.2％）
合計	312（100.0％）

痴漢目撃・居合わせの状況③

目撃した／居合わせた車両の位置／場所

- 電車内：真ん中あたりの車両（52.0%）、端の方の車両（35.6%）、一番端の車両（12.4%）の順が多い。
- 駅構内：ホーム（56.1%）、階段・エスカレーター（16.7%）の順が多い。

目撃した/居合わせたときに乗車していた車両の位置についてお答えください。【電車内】

一番端の車両	129 (12.4%)
端の方の車両（おおむね端から2 - 3両目）	371 (35.6%)
真ん中あたりの車両	542 (52.0%)
合計	1042 (100.0%)

目撃した/居合わせた場所についてお答えください。【駅構内】

改札付近	25 (8.0%)
券売所付近	14 (4.5%)
通路	29 (9.3%)
トイレ	9 (2.9%)
ホーム	175 (56.1%)
階段・エスカレーター	52 (16.7%)
エレベーター	7 (2.2%)
その他	1 (0.3%)
合計	312 (100.0%)

痴漢目撃・居合わせの状況④

目撃した／居合わせた電車の混雑率※／周りの混雑の程度

- 電車内：200%（29.5%）、180%（23.4%）、150%（15.4%）の順が多い。
- 駅構内：周りにある程度の人があった（38.8%）、ある程度混みあっていた（38.8%）が多い。

目撃した／居合わせたときの電車の混雑率についてお答えください。【電車内】

～100%：ほとんど人がいない	41 (3.9%)
～100%：空席が見えるなど空いている	85 (8.2%)
100%：定員乗車	108 (10.4%)
150%：肩が触れる程度	160 (15.4%)
180%：体が触れ合うが新聞は読める	244 (23.4%)
200%：体が触れ合い相当な圧迫	307 (29.5%)
250%：身動きできない	97 (9.3%)
合計	1042 (100.0%)

目撃した／居合わせたときの周りの混雑の程度についてお答えください。【駅構内】

周りにほとんど人はいなかった	19 (6.1%)
周りにある程度の人があった（問題なく歩行などが可能）	121 (38.8%)
ある程度混みあっていた（体が触れ合う程度）	121 (38.8%)
とても混みあっていた（身動きができない程度）	51 (16.3%)
合計	312 (100.0%)

※混雑率の分類は、国等において作成しているものを参考に、本調査において作成したものである。

痴漢目撃・居合わせの状況⑤

目撃した／居合わせた車両内の位置

- 電車内：座席の前の通路（22.6％）、ドア付近（開閉が少ない側）（21.1％）、ドア付近（開閉が多い側）（19.9％）、ドアとドアの間のスペース（16.8％）の順が多い。
- 約6割の目撃・居合わせが、ドアとドアの間の空間（ドア付近（開閉が多い側＋開閉が少ない側）とドアとドアの間のスペースの和）において発生している。

目撃した/居合わせたときには車両内のどこにいたかお答えください。

【電車内】

ドア付近（開閉が多い側）	207（19.9%）
ドア付近（開閉が少ない側）	220（21.1%）
ドアとドアの間のスペース	175（16.8%）
座席の前の通路	235（22.6%）
車両と車両の境目付近	62（6.0%）
座席に座っていた	131（12.6%）
その他	12（1.2%）
合計	1042（100.0%）

痴漢目撃・居合わせの状況⑥

目撃した痴漢被害の内容

- 電車内：衣服ごしに体を触られた（50.0%）、体を密着された（33.2%）、衣服の下から体を触られた（直接触られた）（9.7%）の順が多い。

※被害者の回答と比して、「衣服ごしに体を触られた」等が少なく、「ボタンなどを外された」、「髪を触られた」等が多い（触覚情報が少なく、視覚情報が多い）。

- 駅構内：衣服ごしに体を触られた（19.4%）、体を密着された（17.5%）の順が多い。

目撃した痴漢被害の内容についてお答えください。

【電車内】

衣服ごしに体を触られた	392 (50.0%)
衣服の下から体を触られた（直接触られた）	76 (9.7%)
体を密着された	260 (33.2%)
ボタンなどを外された	36 (4.6%)
髪を触られた	57 (7.3%)
匂いがかがれた	74 (9.4%)
息を吹きかけられた	50 (6.4%)
カバンなどを押し付けられた	62 (7.9%)
A i r D r o pなどで画像を送られた・見せられた	16 (2.0%)
その他	21 (2.7%)
わからない	103 (13.1%)
回答件数	784

【駅構内】

衣服ごしに体を触られた	31 (19.4%)
衣服の下から体を触られた（直接触られた）	6 (3.8%)
体を密着された	28 (17.5%)
ボタンなどを外された	12 (7.5%)
髪を触られた	12 (7.5%)
匂いがかがれた	17 (10.6%)
息を吹きかけられた	6 (3.8%)
カバンなどを押し付けられた	9 (5.6%)
A i r D r o pなどで画像を送られた・見せられた	4 (2.5%)
その他	27 (16.9%)
わからない	39 (24.4%)
回答件数	160

痴漢目撃・居合わせの状況⑦

痴漢に気づいたきっかけ

- 電車内：あなたが、困っている様子の被害者に気がついた（40.4%）、被害者が、声を出して助けを求めた（27.1%）、周囲の人が、声を出して助けを求めた（13.6%）の順が多い。
- 駅構内：被害者が、声を出して助けを求めた（37.8%）、周囲の人が、声を出して助けを求めた（21.1%）の順が多い。

痴漢被害に気が付いたきっかけをお答えください。（複数回答）

【電車内】

あなたが、困っている様子の被害者に気がついた	421 (40.4%)
被害者が、声を出して助けを求めた	282 (27.1%)
被害者が、目配せや合図をした	135 (13.0%)
被害者が、アプリを使用して助けを求めた	50 (4.8%)
周囲の人が、声を出して助けを求めた	142 (13.6%)
周囲の人が、目配せや合図をした	73 (7.0%)
周囲の人が、アプリを使用して助けを求めた	26 (2.5%)
その他	97 (9.3%)
回答件数	1042

【駅構内】

あなたが、困っている様子の被害者に気がついた	36 (11.5%)
被害者が、声を出して助けを求めた	118 (37.8%)
被害者が、目配せや合図をした	21 (6.7%)
被害者が、アプリを使用して助けを求めた	27 (8.7%)
周囲の人が、声を出して助けを求めた	66 (21.2%)
周囲の人が、目配せや合図をした	19 (6.1%)
周囲の人が、アプリを使用して助けを求めた	7 (2.2%)
その他	56 (17.9%)
回答件数	312

痴漢目撃・居合わせの状況⑧

痴漢行為にどの程度確信を持てたか

- 電車内：確信が持てた（43.5%）、どちらとも言えない（36.7%）、確信は持てなかった（19.9%）となっている。
- 駅構内：確信が持てた（40.1%）、どちらとも言えない（36.9%）、確信は持てなかった（23.1%）となっている。

痴漢被害に気が付いたとき、それが痴漢であることにどの程度確信を持てたかお答えください。

【電車内】

確信が持てた	453 (43.5%)
どちらともいえない	382 (36.7%)
確信は持てなかった	207 (19.9%)
合計	1042 (100.0%)

【駅構内】

確信が持てた	125 (40.1%)
どちらともいえない	115 (36.9%)
確信は持てなかった	72 (23.1%)
合計	312 (100.0%)

第三者の対応①

目撃した／居合わせた痴漢に対してとった行動

- 電車内：これらのことはしなかった（49.1%）が最多。とられた行動では、周囲に目配せや合図をした（10.2%）、被害者に合図／声掛けをした（9.7%）、加害者と被害者を引き離した（8.4%）の順が多い。
- 駅構内：これらのことはしなかった（53.5%）が最多。とられた行動では、駅員を呼んだ（10.9%）、被害者に合図／声掛けをした（8.3%）の順が多い。

痴漢を目撃した／居合わせた際に、痴漢を止めたり、被害者を助けたりするために、あなたは次のようなことをしましたか。（複数回答）

【電車内】

加害者（痴漢）の腕をつかんだ・はらった	77 (7.4%)
加害者（痴漢）に話しかけるなどして加害者（痴漢）の注意をそらした	83 (8.0%)
加害者（痴漢）に痴漢だと伝えた	68 (6.5%)
被害者に合図／声掛けをした	101 (9.7%)
加害者（痴漢）と被害者を引き離した	87 (8.4%)
被害者と一緒に逃げた（降りた）	55 (5.3%)
周囲に対して声をだして助けを求めた	55 (5.3%)
周囲に目配せや合図をした	106 (10.2%)
アプリを利用して周りの人に被害を知らせた	19 (1.8%)
緊急停止ボタン・通報ボタンを押した	17 (1.6%)
駅員を呼んだ	63 (6.1%)
電車を降りた被害者に気遣う声をかけた	52 (5.0%)
駅員に被害を証言した	44 (4.2%)
その他	39 (3.8%)
これらのことはしなかった	510 (49.1%)
回答件数	1039

【駅構内】

加害者（痴漢）の腕をつかんだ・はらった	16 (5.1%)
加害者（痴漢）に話しかけるなどして加害者（痴漢）の注意をそらした	19 (6.1%)
加害者（痴漢）に痴漢だと伝えた	20 (6.4%)
被害者に合図／声掛けをした	26 (8.3%)
加害者（痴漢）と被害者を引き離した	23 (7.4%)
被害者と一緒に逃げた（降りた）	13 (4.2%)
周囲に対して声をだして助けを求めた	16 (5.1%)
周囲に目配せや合図をした	22 (7.1%)
アプリを利用して周りの人に被害を知らせた	7 (2.2%)
緊急停止ボタン・通報ボタンを押した	5 (1.6%)
駅員を呼んだ	34 (10.9%)
電車を降りた被害者に気遣う声をかけた	9 (2.9%)
駅員に被害を証言した	8 (2.6%)
その他	11 (3.5%)
これらのことはしなかった	167 (53.5%)
回答件数	312

第三者の対応②

とった行動により痴漢が止まったか

- 電車内：止まった（80.0%）、止まらなかった（20.0%）となっている。
- 駅構内：止まった（69.6%）、止まらなかった（30.1%）となっている。

何かしらの行動をしたときにその痴漢が止まったかお答えください。

【電車内】

止まった	420 (80.0%)
止まらなかった	105 (20.0%)
合計	525 (100.0%)

【駅構内】

止まった	100 (69.9%)
止まらなかった	43 (30.1%)
合計	143 (100.0%)

第三者の対応③

行動をした理由

- 電車内：被害者と目が合った／助けを求められているように感じたから（33.6%）、周囲の人と目が合った／助けを求められているように感じたから（20.0%）、あまりに目に余ったから（19.3%）の順が多い。
- 駅構内：周囲の人が助けていた／助けようとしていたから（22.1%）、周囲の人と目が合った／助けを求められているように感じたから（20.7%）、被害者から助けを求められたから（18.6%）、あまりに目に余ったから（17.2%）の順が多い。

何かしらの行動をした理由をお答えください。（複数回答）

【電車内】

被害者と目が合った／助けを求められているように感じたから	178 (33.6%)
被害者から助けを求められたから	96 (18.1%)
周囲の人と目が合った／助けを求められているように感じたから	106 (20.0%)
周囲の人から助けを求められたから	49 (9.3%)
周囲の人が助けていた／助けようとしていたから	94 (17.8%)
周囲の人が誰も助けようとしていなかったから	72 (13.6%)
加害者（痴漢）と目が合うなどしたから	37 (7.0%)
あまりに目に余ったから	102 (19.3%)
以前も同じ加害者（痴漢）を見かけたから	16 (3.0%)
その他	27 (5.1%)
回答件数	529

【駅構内】

被害者と目が合った／助けを求められているように感じたから	18 (12.4%)
被害者から助けを求められたから	27 (18.6%)
周囲の人と目が合った／助けを求められているように感じたから	30 (20.7%)
周囲の人から助けを求められたから	19 (13.1%)
周囲の人が助けていた／助けようとしていたから	32 (22.1%)
周囲の人が誰も助けようとしていなかったから	15 (10.3%)
加害者（痴漢）と目が合うなどしたから	3 (2.1%)
あまりに目に余ったから	25 (17.2%)
以前も同じ加害者（痴漢）を見かけたから	10 (6.9%)
その他	12 (8.3%)
回答件数	145

第三者の対応④

行動をしなかった理由

- 電車内：痴漢だと確証を持てなかったから（26.1%）、混んでいて動けなかったから（18.3%）、距離が遠かったから（18.1%）の順が多い。
- 駅構内：他の人が実際に助けた／動いたから（27.5%）、距離が遠かったから（22.2%）、痴漢だと確信が持てなかったから（18.6%）の順が多い。

痴漢を目撃した/居合わせた際に何かしらの行動をしなかった/できなかった理由をお答えください。（複数回答）

【電車内】

加害者（痴漢）が怖かったから	75 (14.6%)
混んでいて動けなかったから	94 (18.3%)
距離が遠かったから	93 (18.1%)
痴漢だと確証が持てなかったから	134 (26.1%)
一人で行動することに気おくれを感じたから	72 (14.0%)
時間がないと思った（遅刻など）	39 (7.6%)
誰か他の人が助けるだろうと思ったから	26 (5.1%)
他の人が実際に助けた／動いたから	77 (15.0%)
関わりたくなかったから	84 (16.4%)
私の問題ではないと思ったから	34 (6.6%)
その他	40 (7.8%)
回答件数	513

【駅構内】

加害者（痴漢）が怖かったから	16 (9.6%)
混んでいて動けなかったから	15 (9.0%)
距離が遠かったから	37 (22.2%)
痴漢だと確証が持てなかったから	31 (18.6%)
一人で行動することに気おくれを感じたから	12 (7.2%)
時間がないと思った（遅刻など）	21 (12.6%)
誰か他の人が助けるだろうと思ったから	4 (2.4%)
他の人が実際に助けた／動いたから	46 (27.5%)
関わりたくなかったから	24 (14.4%)
私の問題ではないと思ったから	15 (9.0%)
その他	29 (17.4%)
回答件数	167

届け出・連絡状況①

届け出・連絡状況

- 電車内：何もしていない（71.4%）が最多。届け出・連絡した場合は、駅職員に届け出た（19.4%）、警察に届け出た（8.9%）の順が多い。
- 駅構内：何もしていない（70.5%）が最多。届け出・連絡した場合は、警察に届け出た（12.8%）、駅職員に届け出た（11.9%）の順が多い。

目撃した/居合わせた後にあなたが公的機関などに届け出・連絡をしたかお答えください。（複数回答）

【電車内】

駅職員に届け出た	202 (19.4%)
警察に届け出た	93 (8.9%)
相談機関に連絡した	43 (4.1%)
その他	13 (1.2%)
何もしていない	744 (71.4%)
回答件数	1042

【駅構内】

駅職員に届け出た	37 (11.9%)
警察に届け出た	40 (12.8%)
相談機関に連絡した	25 (8.0%)
その他	4 (1.3%)
何もしていない	220 (70.5%)
回答件数	312

届け出・連絡状況②

連絡した機関名

- 電車内：回答件数が少ないことに留意が必要だが、東京ウィメンズプラザ（36.1%）、東京都女性相談センター（30.6%）が多い。
- 駅構内：回答件数が少ないことに留意が必要だが、東京都女性相談センター（25.0%）、警視庁総合相談センター（25.0%）が多い。

連絡した機関名についてお答えください。（複数回答）

【電車内】

性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター	6 (16.7%)
東京都若者総合相談センター（若ナビa）	9 (25.0%)
東京ウィメンズプラザ	13 (36.1%)
東京都女性相談センター	11 (30.6%)
警視庁総合相談センター	10 (27.8%)
性犯罪被害相談電話（ハートさん）	1 (2.8%)
弁護士	1 (2.8%)
その他	1 (2.8%)
回答件数	36

【駅構内】

性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター	4 (16.7%)
東京都若者総合相談センター（若ナビa）	3 (12.5%)
東京ウィメンズプラザ	3 (12.5%)
東京都女性相談センター	6 (25.0%)
警視庁総合相談センター	6 (25.0%)
性犯罪被害相談電話（ハートさん）	3 (12.5%)
弁護士	4 (16.7%)
その他	0 (0.0%)
回答件数	24

届け出・連絡状況③

目撃した／居合わせた直後、どうしたかったか

- 電車内：特に何もしたくなかった（51.2%）が最多。したかったこととしては、気軽に届け出る・連絡する方法があれば何かしたかった（22.8%）、駅職員に届けたかった（20.8%）、警察に届け出たかった（12.6%）の順が多い。
- 駅構内：特に何もしたくなかった（55.5%）が最多。したかったこととしては、気軽に届け出る・連絡する方法があれば何かしたかった（19.1%）、駅職員に届けたかった（16.8%）、警察に届け出たかった（10.5%）の順が多い。

目撃した/居合わせた直後、本当はどのようにしたかったかお答えください。（複数回答）

【電車内】

駅職員に届け出たかった	155 (20.8%)
警察に届け出たかった	94 (12.6%)
相談機関に連絡したかった	27 (3.6%)
匿名で行政の相談窓口連絡・相談したかった	29 (3.9%)
気軽に届け出る・連絡する方法があれば何かしたかった	170 (22.8%)
その他	21 (2.8%)
特に何もしたくなかった	381 (51.2%)
回答件数	744

【駅構内】

駅職員に届け出たかった	37 (16.8%)
警察に届け出たかった	23 (10.5%)
相談機関に連絡したかった	4 (1.8%)
匿名で行政の相談窓口連絡・相談したかった	7 (3.2%)
気軽に届け出る・連絡する方法があれば何かしたかった	42 (19.1%)
その他	12 (5.5%)
特に何もしたくなかった	122 (55.5%)
回答件数	220

届け出・連絡状況④

連絡をしなかった理由

- 電車内：時間がなかった（34.4%）、痴漢か確信が持てなかった／勘違いだったら恥ずかしい（23.3%）、どのような相談機関があるかわからなかった（17.9%）の順が多い。
- 駅構内：時間がなかった（37.3%）、痴漢か確信が持てなかった／勘違いだったら恥ずかしい（18.2%）の順が多い。

目撃した/居合わせた直後に公的機関などに連絡をしなかった理由をお答えください。（複数回答）

【電車内】

めんどろだった	114 (15.3%)
時間がなかった（遅刻など）	256 (34.4%)
被害者自身が届出を望んでいなかった	59 (7.9%)
犯人が捕まらないと思った	66 (8.9%)
逆恨みが怖かった	89 (12.0%)
痴漢か確信が持てなかった／勘違いだったら恥ずかしい	173 (23.3%)
どのような相談機関があるのか不明だった	133 (17.9%)
相談機関の連絡先がわからなかった	110 (14.8%)
その他	67 (9.0%)
回答件数	744

【駅構内】

めんどろだった	22 (10.0%)
時間がなかった（遅刻など）	82 (37.3%)
被害者自身が届出を望んでいなかった	7 (3.2%)
犯人が捕まらないと思った	15 (6.8%)
逆恨みが怖かった	17 (7.7%)
痴漢か確信が持てなかった／勘違いだったら恥ずかしい	40 (18.2%)
どのような相談機関があるのか不明だった	29 (13.2%)
相談機関の連絡先がわからなかった	29 (13.2%)
その他	51 (23.2%)
回答件数	220

Ⅱ-4 共通設問

【回答者要件】

- 被害者調査および第三者調査の対象者

相談機関①

相談機関の認知度

- 東京都内の性暴力、若者、女性、警察等にかかる相談機関の認知率（100%から「知らない」との回答を減じた値）は、機関によりばらつきはあるが、概ね15～26%程度となっている。
- 認知ルートは、全機関において、電車内・駅構内のポスターなどが最も多くなっている。

痴漢被害についての相談機関について知っている機関(その機関をどこで知ったか)をお答えください。(複数回答)

【回答者全体】

	回答数	知らない	電車内・駅構内のポスターなど	デジタルサイネージ(情報・広告を表示するディスプレイ)	Webニュース	TV・ラジオ・新聞	SNS	ホームページ(ニュース以外)	学校	友人・知人・家族から聞いた	その他
性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター	2908	2283 (78.5%)	385 (13.2%)	114 (3.9%)	117 (4.0%)	51 (1.8%)	55 (1.9%)	28 (1.0%)	21 (0.7%)	14 (0.5%)	3 (0.1%)
東京都若者総合相談センター(若ナビα)	2911	2465 (84.7%)	234 (8.0%)	115 (4.0%)	71 (2.4%)	43 (1.5%)	35 (1.2%)	22 (0.8%)	19 (0.7%)	9 (0.3%)	2 (0.1%)
東京ウィメンズプラザ	2911	2438 (83.8%)	220 (7.6%)	110 (3.8%)	88 (3.0%)	55 (1.9%)	37 (1.3%)	31 (1.1%)	19 (0.7%)	10 (0.3%)	8 (0.3%)
東京都女性相談センター	2909	2273 (78.1%)	317 (10.9%)	109 (3.7%)	135 (4.6%)	78 (2.7%)	51 (1.8%)	31 (1.1%)	28 (1.0%)	17 (0.6%)	13 (0.4%)
警視庁総合相談センター	2909	2154 (74.0%)	378 (13.0%)	157 (5.4%)	134 (4.6%)	93 (3.2%)	53 (1.8%)	36 (1.2%)	26 (0.9%)	22 (0.8%)	8 (0.3%)
性犯罪被害相談電話(ハートさん)	2912	2361 (81.1%)	261 (9.0%)	116 (4.0%)	104 (3.6%)	59 (2.0%)	48 (1.6%)	33 (1.1%)	26 (0.9%)	12 (0.4%)	4 (0.1%)
被害者支援都民センター	2912	2430 (83.4%)	228 (7.8%)	106 (3.6%)	87 (3.0%)	56 (1.9%)	52 (1.8%)	31 (1.1%)	16 (0.5%)	7 (0.2%)	4 (0.1%)

相談機関②

相談機関の印象

- 痴漢被害の相談機関に対する印象をたずねたところ、「とてもそう思う」、「そう思う」との回答の和が多いのは、どのようなことをしてくれるかがわからない（65.1%）、どの機関に相談してよいかわからない（64.8%）、どのような相談方法があるかがわからない（63.1%）となっている。
- 一方、上記回答の和が少ないのは、不快なことを言われるかもしれない／余計につらい思いをしそう（41.6%）、被害を解決してくれる／解決策を考えてくれる（42.8%）となっている。

痴漢被害の相談機関に対する印象についてお答えください。

【回答者全体】

	回答数	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
自分にあつたところに相談することができる	2912 (100.0%)	419 (14.4%)	980 (33.7%)	1115 (38.3%)	312 (10.7%)	86 (3.0%)
被害を解決してくれる／解決策を教えてください	2912 (100.0%)	370 (12.7%)	876 (30.1%)	1083 (37.2%)	426 (14.6%)	157 (5.4%)
親身に話を聞いてくれそう	2912 (100.0%)	491 (16.9%)	1133 (38.9%)	968 (33.2%)	224 (7.7%)	96 (3.3%)
不快なことを言われるかもしれない／余計につらい思いをしそう	2912 (100.0%)	380 (13.0%)	832 (28.6%)	1151 (39.5%)	447 (15.4%)	102 (3.5%)
相談しても解決につながらない	2912 (100.0%)	534 (18.3%)	1001 (34.4%)	1049 (36.0%)	258 (8.9%)	70 (2.4%)
どのようなことをしてくれるかがわからない	2912 (100.0%)	661 (22.7%)	1235 (42.4%)	817 (28.1%)	156 (5.4%)	43 (1.5%)
どの機関に相談してよいかわからない	2912 (100.0%)	681 (23.4%)	1206 (41.4%)	836 (28.7%)	143 (4.9%)	46 (1.6%)
どのような相談方法があるかがわからない	2912 (100.0%)	604 (20.7%)	1234 (42.4%)	853 (29.3%)	165 (5.7%)	56 (1.9%)
自分が被害にあつた時に相談したい	2912 (100.0%)	412 (14.1%)	936 (32.1%)	1209 (41.5%)	279 (9.6%)	76 (2.6%)
家族や知人が被害にあつた時に相談を勧めたい	2912 (100.0%)	453 (15.6%)	1106 (38.0%)	1130 (38.8%)	158 (5.4%)	65 (2.2%)

相談機関③

適している相談方法

- 痴漢被害の相談に適している相談方法としては、回答者全体では、SNS（56.1%）、メール（45.8%）、電話（38.7%）、対面（35.2%）の順に多くなっている。
- 性・性自認別には、女性では、SNS＞メール＞電話＞対面の順、男性では4つの相談方法の比率が同水準となっている。
- 年代別には、若い層ほどSNS、高齢層ほどメールと電話および対面を望む傾向がある。

あなたが適していると思う痴漢被害についての相談方法をお答えください。（複数回答）

【性・性自認別】

	全体	対面	電話	メール	SNS（LINEなど）	その他
全体	2912	1025 (35.2%)	1127 (38.7%)	1333 (45.8%)	1634 (56.1%)	29 (1.0%)
男性	602	269 (44.7%)	290 (48.2%)	286 (47.5%)	268 (44.5%)	8 (1.3%)
女性	2282	750 (32.9%)	828 (36.3%)	1036 (45.4%)	1348 (59.1%)	21 (0.9%)
ノンバイナリー／Xジェンダー	28	6 (21.4%)	9 (32.1%)	11 (39.3%)	18 (64.3%)	0 (0.0%)

【年代別】

	全体	対面	電話	メール	SNS（LINEなど）	その他
全体	2911	1024 (35.2%)	1126 (38.7%)	1333 (45.8%)	1634 (56.1%)	29 (1.0%)
10代	258	77 (29.8%)	66 (25.6%)	97 (37.6%)	158 (61.2%)	2 (0.8%)
20代	1127	351 (31.1%)	394 (35.0%)	475 (42.1%)	673 (59.7%)	6 (0.5%)
30代	1126	405 (36.0%)	472 (41.9%)	541 (48.0%)	632 (56.1%)	11 (1.0%)
40代	142	63 (44.4%)	69 (48.6%)	72 (50.7%)	75 (52.8%)	3 (2.1%)
50代	163	83 (50.9%)	75 (46.0%)	91 (55.8%)	63 (38.7%)	3 (1.8%)
60代	95	45 (47.4%)	50 (52.6%)	57 (60.0%)	33 (34.7%)	4 (4.2%)

「周囲の人が痴漢を防ぐ」という考え方

「周囲の人が痴漢を防ぐ」という考え方の認知度

- 「周囲の人が痴漢を防ぐ」という考え方の認知率（「知っている」との回答）は、回答者全体で、35.7%となっている。
- 性・性自認別には、男性で認知率が高い。
- 年代別には、10代や40～60代で認知率が高く、30代で低い。

「周囲の人が痴漢を防ぐ」という考え方を知っていますか。

【性・性自認別】

	全体	知っている	知らない
全体	2912 (100.0%)	1039 (35.7%)	1873 (64.3%)
男性	602 (100.0%)	260 (43.2%)	342 (56.8%)
女性	2282 (100.0%)	769 (33.7%)	1513 (66.3%)
ノンバイナリー／Xジェンダー	28 (100.0%)	10 (35.7%)	18 (64.3%)

【年代別】

	全体	知っている	知らない
全体	2911 (100.0%)	1038 (35.7%)	1873 (64.3%)
10代	258 (100.0%)	113 (43.8%)	145 (56.2%)
20代	1127 (100.0%)	425 (37.7%)	702 (62.3%)
30代	1126 (100.0%)	323 (28.7%)	803 (71.3%)
40代	142 (100.0%)	65 (45.8%)	77 (54.2%)
50代	163 (100.0%)	66 (40.5%)	97 (59.5%)
60代	95 (100.0%)	46 (48.4%)	49 (51.6%)

痴漢撲滅に向けた考え・行動①

痴漢の被害や、周囲の人が痴漢を防ぐことへの考え方

- 痴漢の被害や、周囲の人が痴漢を防ぐことへの考え方として、「とてもよくあてはまる」、「よくあてはまる」との回答の和が多いのは、確証が持てなければ、被害者を助けにくい（69.1%）、助けた後に、どの程度時間がとられるかが分からない（69.0%）、助けた後に、どのような結果になるかが分からない（68.6%）、周りの人が助けると被害を止めることができる（65.7%）となっている。
- 上記回答の和が少ないのは、痴漢の被害は、私の問題ではない（27.5%）、自分が助けなくても、他の誰かが助けてくれる（29.6%）となっている。

痴漢の被害や、周囲の人が痴漢を防ぐことについての次の意見について、あなたはどのようにお考えですか。

【回答者全体】

	回答数	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
周りの人が助けると被害を止めることができる	2912 (100.0%)	608 (20.9%)	1304 (44.8%)	757 (26.0%)	201 (6.9%)	42 (1.4%)
自分が助けると周りの人も助けてくれる	2912 (100.0%)	401 (13.8%)	1039 (35.7%)	1025 (35.2%)	360 (12.4%)	87 (3.0%)
自分一人で助けても、被害者を十分に助けられるかわからない	2912 (100.0%)	592 (20.3%)	1197 (41.1%)	906 (31.1%)	177 (6.1%)	40 (1.4%)
自分が助けなくても、他の誰かが助けてくれる	2912 (100.0%)	242 (8.3%)	621 (21.3%)	1292 (44.4%)	592 (20.3%)	165 (5.7%)
確証が持てなければ、被害者を助けにくい	2912 (100.0%)	850 (29.2%)	1162 (39.9%)	704 (24.2%)	153 (5.3%)	43 (1.5%)
助けた後に、どの程度時間がとられるかが分からない	2912 (100.0%)	875 (30.0%)	1133 (38.9%)	705 (24.2%)	167 (5.7%)	32 (1.1%)
助けた後に、どのような結果になるかが分からない	2912 (100.0%)	808 (27.7%)	1190 (40.9%)	764 (26.2%)	121 (4.2%)	29 (1.0%)
他人にはかかわりたくない	2912 (100.0%)	349 (12.0%)	776 (26.6%)	1243 (42.7%)	428 (14.7%)	116 (4.0%)
痴漢の被害は、私の問題ではない	2912 (100.0%)	254 (8.7%)	548 (18.8%)	1202 (41.3%)	655 (22.5%)	253 (8.7%)
自分一人が助けるのは恥ずかしい	2912 (100.0%)	301 (10.3%)	818 (28.1%)	1057 (36.3%)	534 (18.3%)	202 (6.9%)

痴漢撲滅に向けた考え・行動②

次に痴漢を目撃したら行動を取るか

- 次に痴漢を目撃したら行動を取るかについては、回答者全体では、「必ず行動を取ると思う」、「行動を取ると思う」との回答の和は46.5%となっている。
- 性・性自認別には、回答者全体比で、行動を取るとする回答（上記回答の和）は男性で多い。
- 年代別には、回答者全体比で、行動を取るとする回答（上記回答の和）は50～60代や10代で多い。

あなたは痴漢を目撃したら、痴漢を止めたり、被害者を助けたりするために、
行動を取ると思いますか。

【性・性自認別】

	全体	必ず行動を取 ると思う	行動を取 ると思う	どちらでも ない	行動は取 らないと思 う	絶対に行 動は取らな いと思 う
全体	2912 (100.0%)	234 (8.0%)	1121 (38.5%)	1079 (37.1%)	398 (13.7%)	80 (2.7%)
男性	602 (100.0%)	63 (10.5%)	273 (45.3%)	196 (32.6%)	57 (9.5%)	13 (2.2%)
女性	2282 (100.0%)	169 (7.4%)	839 (36.8%)	876 (38.4%)	335 (14.7%)	63 (2.8%)
ノンバイナリー／Xジェンダー	28 (100.0%)	2 (7.1%)	9 (32.1%)	7 (25.0%)	6 (21.4%)	4 (14.3%)

【年代別】

	全体	必ず行動を取 ると思う	行動を取 ると思う	どちらでも ない	行動は取 らないと思 う	絶対に行 動は取らな いと思 う
全体	2911 (100.0%)	234 (8.0%)	1120 (38.5%)	1079 (37.1%)	398 (13.7%)	80 (2.7%)
10代	258 (100.0%)	22 (8.5%)	112 (43.4%)	75 (29.1%)	44 (17.1%)	5 (1.9%)
20代	1127 (100.0%)	97 (8.6%)	449 (39.8%)	389 (34.5%)	166 (14.7%)	26 (2.3%)
30代	1126 (100.0%)	74 (6.6%)	384 (34.1%)	472 (41.9%)	153 (13.6%)	43 (3.8%)
40代	142 (100.0%)	20 (14.1%)	50 (35.2%)	52 (36.6%)	17 (12.0%)	3 (2.1%)
50代	163 (100.0%)	11 (6.7%)	76 (46.6%)	63 (38.7%)	10 (6.1%)	3 (1.8%)
60代	95 (100.0%)	10 (10.5%)	49 (51.6%)	28 (29.5%)	8 (8.4%)	0 (0.0%)

痴漢撲滅に向けた考え・行動③

痴漢を止めたり、被害者を助けたりする後押し

- 痴漢を目撃したときに、どのようなことが、痴漢を止めたり、被害者を助けたりする後押しになるかについて、「とても後押しになる」、「後押しになる」との回答の和が多いのは、周囲の人が一緒に行動してくれること（79.6%）、被害者が助けを求めてくること（79.3%）、痴漢をとがめることが当然という意識をみんなが持っていること（75.5%）となっている。
- 上記回答の和が少ないのは、事後にアプリなどでワンタッチで行政の相談窓口へ連絡・相談（60.0%）、その場でアプリなどでワンタッチで行政の相談窓口へ連絡・相談（62.4%）、匿名で行政の相談窓口へ連絡・相談（63.0%）となっている。

痴漢を目撃したときに、次のようなことは、痴漢を止めたり、被害者を助けたりする後押しになると思いますか。

【回答者全体】

	全体	とても後押しになる	後押しになる	どちらでもない	後押しにはならない	まったく後押しにはならない
被害者が助けを求めてくること	2912 (100.0%)	1080 (37.1%)	1228 (42.2%)	478 (16.4%)	104 (3.6%)	22 (0.8%)
周囲の人が一緒に行動してくれること	2912 (100.0%)	1312 (45.1%)	1005 (34.5%)	495 (17.0%)	75 (2.6%)	25 (0.9%)
痴漢行為についての正確な知識を持っていること	2912 (100.0%)	818 (28.1%)	1221 (41.9%)	751 (25.8%)	98 (3.4%)	24 (0.8%)
どこに相談したらよいかの知識を持っていること	2912 (100.0%)	732 (25.1%)	1185 (40.7%)	799 (27.4%)	158 (5.4%)	38 (1.3%)
痴漢をとがめることが当然という意識をみんなが持っていること	2912 (100.0%)	1070 (36.7%)	1130 (38.8%)	586 (20.1%)	101 (3.5%)	25 (0.9%)
もし空振りだったとしても責められないこと	2912 (100.0%)	1031 (35.4%)	1010 (34.7%)	694 (23.8%)	130 (4.5%)	47 (1.6%)
その場でアプリなどでワンタッチで行政の相談窓口へ連絡・相談	2912 (100.0%)	739 (25.4%)	1077 (37.0%)	877 (30.1%)	172 (5.9%)	47 (1.6%)
事後にアプリなどでワンタッチで行政の相談窓口へ連絡・相談	2912 (100.0%)	683 (23.5%)	1064 (36.5%)	941 (32.3%)	176 (6.0%)	48 (1.6%)
匿名で行政の相談窓口へ連絡・相談	2912 (100.0%)	745 (25.6%)	1089 (37.4%)	887 (30.5%)	150 (5.2%)	41 (1.4%)

痴漢撲滅に向けた考え・行動④

痴漢撲滅のための意識等の変容

- 痴漢撲滅のために重要な意識変容等としては、回答者全体では、痴漢は犯罪という認識を広めること（69.9%）、被害者が責められない社会を実現すること（53.3%）、周囲の人も当事者という認識を広めること（42.5%）との意見が多くなっている。
- 性・性自認別にみると、回答者全体比で、男性では、被害者が責められない社会を実現すること、周囲の人も当事者という認識を広めることとの回答比率がやや少ない。
- 年代別には、大きな差はみられなかった。

あなたは、痴漢撲滅のためにどのようなことが重要だと思いますか。（複数回答）

【性・性自認別】

	全体	痴漢は犯罪 という認識を 広めること	痴漢に関する 誤った認識を 正すこと	被害者が責 められない社 会を実現する こと	官民一体と なって痴漢撲 滅への気運 を高めること	周囲の人も 当事者という 認識を広める こと	その他
全体	2912	2036 (69.9%)	1085 (37.3%)	1552 (53.3%)	946 (32.5%)	1239 (42.5%)	86 (3.0%)
男性	602	405 (67.3%)	228 (37.9%)	282 (46.8%)	197 (32.7%)	222 (36.9%)	31 (5.1%)
女性	2282	1616 (70.8%)	845 (37.0%)	1259 (55.2%)	737 (32.3%)	1003 (44.0%)	54 (2.4%)
ノンバイナリー／Xジェンダー	28	15 (53.6%)	12 (42.9%)	11 (39.3%)	12 (42.9%)	14 (50.0%)	1 (3.6%)

痴漢撲滅に向けた考え・行動⑤

痴漢撲滅に向けた効果がありそうな取り組み

- 痴漢撲滅に向けて効果がありそうだと思う取り組みについては、回答者全体では、防犯カメラの設置（72.0%）、届け出・連絡の簡素化・簡略化（44.7%）、防犯ブザーの普及（37.8%）、加害者の再犯防止プログラム（30.8%）、防犯アプリの普及（30.7%）、匿名で行政の相談窓口で連絡・相談（被害時）（30.4%）の順で多くなっている。
- 性・性自認別には、大きな差はみられなかった。
- 年代別にみると、全体比で、50～60代で防犯ブザーの普及、防犯カメラの設置、届け出・連絡の簡素化・簡略化等が多い。

痴漢撲滅に向けて効果がありそうだと思う取り組みをお答えください。（複数回答）

【年代別】

	全体	防犯カメラの設置	防犯ブザーの普及	痴漢撲滅に賛同する人が共通で身につけるアクセサリー	届け出・連絡の簡素化・簡略化	匿名で行政の相談窓口で連絡・相談（被害時）	匿名で行政の相談窓口で連絡・相談（事後）	正しい知識の広報（ワンストップのサイトなど）	防犯アプリ（Digital Police）の普及	加害者の再犯防止プログラム	官民連携によるハード整備	官民連携による啓発活動	その他
全体	2911	2097 (72.0%)	1101 (37.8%)	532 (18.3%)	1302 (44.7%)	884 (30.4%)	842 (28.9%)	692 (23.8%)	893 (30.7%)	895 (30.7%)	480 (16.5%)	411 (14.1%)	74 (2.5%)
10代	258	189 (73.3%)	76 (29.5%)	52 (20.2%)	102 (39.5%)	82 (31.8%)	83 (32.2%)	61 (23.6%)	81 (31.4%)	76 (29.5%)	35 (13.6%)	28 (10.9%)	3 (1.2%)
20代	1127	790 (70.1%)	350 (31.1%)	207 (18.4%)	500 (44.4%)	357 (31.7%)	324 (28.7%)	255 (22.6%)	365 (32.4%)	336 (29.8%)	172 (15.3%)	133 (11.8%)	22 (2.0%)
30代	1126	821 (72.9%)	482 (42.8%)	201 (17.9%)	508 (45.1%)	333 (29.6%)	325 (28.9%)	276 (24.5%)	329 (29.2%)	346 (30.7%)	202 (17.9%)	178 (15.8%)	37 (3.3%)
40代	142	97 (68.3%)	57 (40.1%)	30 (21.1%)	62 (43.7%)	38 (26.8%)	40 (28.2%)	34 (23.9%)	50 (35.2%)	49 (34.5%)	29 (20.4%)	27 (19.0%)	3 (2.1%)
50代	163	123 (75.5%)	85 (52.1%)	27 (16.6%)	80 (49.1%)	45 (27.6%)	44 (27.0%)	37 (22.7%)	43 (26.4%)	58 (35.6%)	24 (14.7%)	27 (16.6%)	6 (3.7%)
60代	95	77 (81.1%)	51 (53.7%)	15 (15.8%)	50 (52.6%)	29 (30.5%)	26 (27.4%)	29 (30.5%)	25 (26.3%)	30 (31.6%)	18 (18.9%)	18 (18.9%)	3 (3.2%)

東京都による痴漢対策などに関する意見・要望①

大項目	中項目	主な意見
広報・周知	広報・啓発不足の解消	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報・啓発が不十分なため、もっと大々的に広報を行った方がよい。 ・ テレビやSNSなど誰でも目が入るような媒体を活用して、広報を行った方がよい。 ・ 痴漢撲滅のための都の取組に関する情報発信が不十分である。 ・ 若者が被害にあうことが多いため、SNS等を活用したわかりやすい情報発信が必要である。 ・ 性加害を防ぐためにも幼少期からの教育が必要である。（学校の授業、教育プログラムの開発等） ・ 痴漢の対処方法、護身術等に関する情報発信がなされるとよい。 ・ 目撃時の対応方法がわからない。 ・ 被害データの公開、痴漢防止等のキャンペーン効果について情報発信をしてほしい。 ・ 被害者側がどう動けば良いのかという点において、まだ周知が不十分。
	被害者に寄り添った広報、メッセージ配信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 痴漢防止ポスターを貼るよりも、被害にあっている人を守るメッセージを東京都が公式に発信するほうが何倍も効果がある。被害者が相談窓口に来るのを待たずに、SNSでメッセージを発信すべき。 ・ 「キャンペーン」なんて軽々しく言わないでほしい。
	外国語での広報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最近では海外からの旅行客が来日記念に痴漢をして帰国したり、痴漢行為を目的に来日したりすることもあると聞くため、外国語（特に中国語、韓国語）も用いて罰則を周知徹底させた方がよい。
	ポスターでの周知	<ul style="list-style-type: none"> ・ 痴漢多発地域を中心にポスター掲示数を増やした方がよい。 ・ 痴漢加害者が脅威に感じるような内容を記載したポスターの掲示を行った方がよい。 ・ 横浜駅に貼ってある痴漢撲滅ポスターはパンチがあって記憶に残りやすい。写真に撮ってSNSにあげてる人がいたほどだった。
	痴漢行為についての周知	<ul style="list-style-type: none"> ・ 痴漢が犯罪ということの周知が必要。 ・ 痴漢行為の具体例の周知、グレーゾーンな行為（座っている時に手の甲が太ももに触れる等）に対する注意喚起が必要。 ・ 検挙率等のデータを活用した周知が必要。 ・ 痴漢被害による後遺症等、被害者の苦しみを伝える広報が必要。
	防犯アプリ・防犯グッズの周知・普及促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ アプリの有効性についてもっと周知してほしい。 ・ 学校でアプリの紹介をした方がよい。 ・ 防犯ベル等の普及活動をもっとしてほしい。
	現状の広報に満足	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポスターなどもよく見かけるようになり、改善している印象がある。

東京都による痴漢対策などに関する意見・要望②

大項目	中項目	主な意見
被害者・加害者等への対策	被害者への対策・被害者ケアの強化	<ul style="list-style-type: none"> 被害者が救われるような、被害者に寄り添った対策をしてほしい。 被害者が助けを求めやすい合図や言葉等があるとよい。 被害者が被害後も公共交通機関を安心して使えるようにケアしてほしい。 被害者が必要なケアにつながるように、然るべき機関につないでほしい。
	男性被害者への対策	<ul style="list-style-type: none"> 男性の被害も多くみられるため、男性被害の対策もしてほしい。
	加害者に対する厳罰化等	<ul style="list-style-type: none"> 厳罰化（実名公表等）の検討が必要。 東京都独自の罰則等の整備が必要。 なぜ被害者と目撃者に対策を求めるのか。加害者をターゲットにした対策をもっと深く考えてほしい。
	痴漢未然防止への対策	<ul style="list-style-type: none"> SNS等で痴漢募集といった変な投稿を見たことがある。そういうものも取り締まってほしい。 「痴漢がおこったら」ではなく「起こさせない」取組をしてほしい。起こってからでは遅い。
	性犯罪者としての対応	<ul style="list-style-type: none"> 諸外国同様に、性犯罪者に厳しい対応をしてほしい。（GPSの埋め込み等） 性犯罪者の公共交通機関の利用制限を検討してほしい。 痴漢行為が重い罪であることを知る等、加害者の意識変革が必要。 犯罪者情報の開示を検討してほしい。
環境整備	痴漢行為をしづらい環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 出来る限りの範囲で痴漢行為をしにくい環境づくりが必要。
	混雑緩和対策	<ul style="list-style-type: none"> 企業に対して、もっとリモートワークを推進してほしい。 フレックスタイムの義務化等、オフピーク通勤・通学の推進を図ってほしい。 東京一極集中の解消を行い、混雑緩和を図ってほしい。
	味方がわかる仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 助けたくても女性1人の力では難しいことも多いため、手伝ってくれる男性がわかりやすいようになるとよい。
	痴漢行為の基準の明確化・グレーゾンの行為に対する対策	<ul style="list-style-type: none"> どの程度で「痴漢」と認識されるのか基準が曖昧で見つけても報告しにくい。 空いた車内で隣に座られる・僅かに触れ続ける・息を吹きかけてくる等のグレーゾンの行為に対する対策、対処方法、相談方法について知りたい。
	時代に即した対策	<ul style="list-style-type: none"> 常にアップデートされた、時代に即した正しい対策が必要。
	近隣県との連携、全国レベルでの対策	<ul style="list-style-type: none"> 近県との協力体制が取れることで、痴漢対策の効果がより上がるのではないかと。 東京都だけではなく、全国レベルで対策をすべき。
	官民一体となつての取組	<ul style="list-style-type: none"> 官民一体となつて痴漢撲滅のために行動していくことが大切だと思う。
	現状の対策に満足	<ul style="list-style-type: none"> 官民一体でできているので、とても良いと思う。

東京都による痴漢対策などに関する意見・要望③

大項目	中項目	主な意見
相談等	相談窓口の充実	<ul style="list-style-type: none"> • 確信が持てないと相談しづらいため、気のせいでも相談・通報ができる窓口があるとよい。 • 相談しやすい機関を作るなど被害者が泣き寝入りをしないような体制を整えてほしい。 • 親身になってくれる、相談者に寄り添ってくれる相談員を配置してほしい。 • 匿名相談できる相談システムが普及するとよい。
	相談窓口および相談方法等の周知	<ul style="list-style-type: none"> • 相談機関の情報、相談機関の対応等について、もっと周知されると相談しやすい。 • 被害を受けた時の行動、連絡先等が周知されるとよい。 • 被害にあいやすい若い人が使うSNSで相談窓口について広めるとよい。
	相談者の負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> • 相談に時間も手間もかかるため、相談しづらい。 • 通学時など時間がない時でも連絡・相談できる方法があると嬉しい。 • 電話、SNSやGoogleフォームなどを活用して起きた場所、その時にすぐに連絡できるような張り紙があるとよい。
	相談者が救済される仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> • 現行犯で捕まえない限り、相談しても解決しない。心もあまり楽にならないと感じ、相談する気もおきない。 • 男性被害者が声をあげづらい。
	被害者の安全が守られる仕組み	<ul style="list-style-type: none"> • 正式な手続きを踏むことで自分の身分が明かされ、将来的な報復があるかもしれないと思うと行動できない。
意識変革	社会全体の意識変革	<ul style="list-style-type: none"> • 性犯罪者の矯正は難しいと昔から聞くので、痴漢行為が減らないと諦めてしまっている。 • 痴漢される側が悪いという風潮があったり、女性にとって痴漢が日常的な部分もあり、悪い意味での慣れがあったりする。また、周囲（特に男性）の正しい理解も必要。 • 痴漢撲滅の社会づくりが必要（社会全体で議論を深める等）。
	被害者、周囲の人の意識変革	<ul style="list-style-type: none"> • 被害者が声をあげやすい環境の整備が必要。 • スマホ操作やイヤホン装着で周囲に無関心な人が増えている。見て見ぬふりをするのではなく、アクティブバイスタンダーが増えるようになってほしい。 • 痴漢を見かけた際の対応の仕方を企業や学校で講習会等を行なえるとよい。 • SOSがわかりにくい、手助けしにくい。 • 加害者に危害を加えられないか怖くて、何もできない。 • かかわると損をするという状況を変える努力をしてほしい。 • 見てみぬふりも同罪だということの理解が必要。
	痴漢被害者への周囲の理解	<ul style="list-style-type: none"> • 痴漢されたとクラスメート（男子）に言った時、「お前が？」と言われ、不細工なのに自惚れるなどと思われるのが怖くて誰にも言えなくなった。

東京都による痴漢対策などに関する意見・要望④

大項目	中項目	主な意見
その他、意見・要望		<ul style="list-style-type: none">• 当事者の意見を反映させる。• 一般と行政で考えがズれていると感じるので様々な立場の人と話し合っ欲しい。• 何もしないで欲しい。• 行政の対策は当たり障りない役所対応過ぎるので、相談しようと思わない。現場の人間が悪い訳ではないので、政治家の給料を減らして現場に回し、より良い人材を確保すべき。• もっと性犯罪対策に予算をつけて欲しい。

Ⅲ ヒアリング調査結果要旨

調査実施要領

目的

- 【痴漢被害経験者調査】痴漢被害状況、被害時の心情、対応等に関する詳細な把握・理解
- 【相談支援機関等調査】痴漢被害の相談・支援状況、被害防止対策等の把握

調査実施要領

調査対象	痴漢被害経験者 (アンケート調査回答者)	相談支援機関等
実施方法	オンラインヒアリング	対面・オンラインヒアリング
対象者数	20人	8機関
調査項目	○痴漢被害状況（被害場面／被害内容／被害にあったときの気持ち・行動・その理由／周囲の人の様子・行動・求めること／届け出・連絡・相談状況）	○痴漢被害者からの相談状況 ○痴漢被害者への支援状況 ○痴漢撲滅に向け、行政・社会に求めること ○都による痴漢対策等への意見・要望

Ⅲ-1 痴漢被害経験者ヒアリング

【調査対象】

- アンケート調査（痴漢被害者調査）の回答者のうち、ヒアリング調査への協力に同意いただいた方。
- 調査対象者20名は、アンケート調査結果を参考に、痴漢被害遭遇時に被害者がとられた行動（何もできなかった、我慢した、逃げた・移動した、痴漢行為をやめさせた、周囲にいた人が介入した、駅職員・警察・相談機関に届け出・相談・連絡した等）ごとにバランスよく回答を得られるように抽出。
- また、可能な限り、年齢層や被害が多い路線等のバランスを考慮した。
- 被害者アンケート調査（電車内の被害）では、「あなたが痴漢行為をやめさせた」が15.2%、「周囲の人が痴漢行為をやめさせた」が2.8%となっている状況と比較すると、本ヒアリング調査では、「被害者が痴漢行為をやめさせた」が4/20件（20%）、「周囲の人が助けてくれた」が4/20件（20%）と、被害者ならびに周囲の人が具体的対応をとっているケースが多い点に留意が必要である。

痴漢被害の内容：体を触られた、密着された等

- 本調査に協力いただいた方が、直近にあわれた痴漢被害の内容は下表のとおり。
- 衣服ごしに体を触られた被害（お尻や腰付近を手で触る・探る）、体を密着された被害（吊革につかまりながら腕や肘で胸を触る、お尻に股間を押し付ける）、衣服の下から体を触られた被害（スカートの中に手を入れる、座っている時に太ももや膝を触る）等がみられている。

被害の種類	被害の内容
衣服ごしに体を触られた	<ul style="list-style-type: none"> ● 携帯を見ていたところ、お尻を触られた。 ● ホームの自動販売機で飲み物を取るためにかがんでいる時に、お尻を掴むように触られた。 ● 最初は混雑の中の接触と思ったが、お尻を手で触ってきた。 ● お尻を触られている感覚が続いたため、身体をよじってかわしたところ、手がついてきた。 ● 最初はお尻に手が当たっていた程度だったが、徐々に強く触ってきた。 ● 違和感を覚えるほど、身体を密着された。その後、加害者の指が自分の腰付近を探り始めた。 ● 降車駅でドアが開くのを待っていたとき、衣服の上からお尻を触られた。 ● 衣服ごしに身体を触られた。さらにスカートをめくられそうになった。
体を密着された	<ul style="list-style-type: none"> ● 隣で吊革につかまっていた加害者から不自然な身体の密着があった。徐々に強く密着され、肘・腕で胸を触られた。 ● 吊革につかまっていた腕の肘を胸の谷間に押し付ける感じで触ってきた。 ● 満員電車の中、お尻に股間を押し付けてきた。
衣服の下から体を触られた (直接接触された)	<ul style="list-style-type: none"> ● 最初はぶつかっただけかと思ったが、その後、スカートの中に手を入れてきた。 ● 背後から過度に密着され、衣服越しにお尻を触られ、スカート内に手が入り、直接肌を触られた。 ● ほぼ人がいない車内で座席に座っていたところ、隣に座ってきた加害者が、太ももを触ってきた。次第にエスカレートして、膝に手を乗せてきた。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 真後ろで携帯カメラのシャッター音が聴こえて振り返ると、男がスカートの中を盗撮していた。*

*盗撮は本調査における痴漢行為の対象としていないが、逮捕につながったケースでもあるため、記載した。

痴漢行為を確信するまでに少し時間を要する

- 痴漢行為は、最初は被害者が違和感を感じるような接触から始まり、相手の反応を見ながら少しずつエスカレート（接触を強める、露骨に触る等）させていくものが多い。
- そのような状況で、被害者が痴漢行為に気づき、確信するまでには一定の時間を要する状況がうかがえる。

【痴漢行為に気づいてから確信するまでの経緯】

- お尻に手のようなものがあたっている感触があった。意図的か偶然かわからなかったので、身体を位置を動かしてみたが、その手がついて来たので、痴漢と確信した。
- 何かが自分のお尻にあたっていると気がついた。違和感はあるが、混雑していたため、初めは偶然か、誰かのバッグが当たっているのだと思った。しばらくしても触れられている感覚が続いたため、さりげなく身をよじってかわそうとしたところ、加害者が自分の動きに合わせて身体や手を密着させてきたため、痴漢と確信した。
- 最初はお尻あたりに手があたっている程度で、痴漢とはわからなかったが、長く続き、段々と強くなっていったため、痴漢行為に気づいていることに気がついた。
- 加害者は吊革につかまり、自身の真横に立っていた。混雑車内でも不自然に思えるほどの身体の密着があり違和感を覚えた。最初は満員電車なので仕方がないかと思っていたが、その後も徐々に強く密着され、肘や腕で胸を触られたことで、痴漢と判断した。
- 手を伸ばせば届く範囲に立っていた加害者が左手でつり革を持っていた。最初は少し触れる程度で痴漢とはわからなかったが、次第に調子に乗ってか、左ひじを胸の谷間に押し付けるような感じで触ってきた。
- 混雑時でも違和感を覚えるほど、自身の斜め後ろから密着された。普通の男性なら車内で女性と距離が近くなる時は配慮する素振りがあるはずだが、強く身体を押し付けてくるような感覚があった。次第に相手の指が自分の腰付近を探り始めて、痴漢だと気がついた。
- 背後からの過度に密着され、衣服越しにお尻あたりを触られ、スカート内に手が入ったとき、痴漢と確信した。
- 最初はポケットに手を突っ込んで当たっているだけかと思っていたが、足に触れられている感触が強くなっていき、痴漢と確信した。

被害時の心情：驚き、嫌悪、羞恥、恐怖、怒り・悔しさ

- 本調査に協力いただいた被害者からは、痴漢被害を認識した時には、「驚き」、「嫌悪」、「羞恥」、「恐怖」、「怒り・悔しさ」等が複雑に交差した心情になることが、教示された。
- 時間の経過とともに、驚き・恐怖等の心情が、怒り等へと移っていくケースもみられる。

被害時の心情	内容
驚き	<ul style="list-style-type: none"> ● 突然の出来事でどうしてよいかわからなかった。 ● 最初は驚きの気持ちが高く、混雑車内でどうしたらよいかわからなかった。 ● 突然のことで状況を理解できず、固まってしまった。
嫌悪	<ul style="list-style-type: none"> ● とても嫌な気持ちになった。 ● 気持ち悪いと感じた。 ● 誰から被害を受けたかわからず、とても気持ち悪かった。
羞恥	<ul style="list-style-type: none"> ● 周囲に気づかれて目立つのも嫌だった。
恐怖	<ul style="list-style-type: none"> ● とても怖く感じ、ひたすらやめてほしいと思った。 ● 変な人に絡まれると怖いと感じ、手が出なかった。 ● 怖さ、気持ち悪さ、恥ずかしさで声をあげられなかった。 ● 初めて受けた痴漢被害で、強い恐怖を感じ、急いでその場を離れた。降車後も驚きと恐怖がしばらく続いた。
怒り・悔しさ	<ul style="list-style-type: none"> ● すごく腹が立った。 ● 怒りを感じた。 ● 痴漢行為がエスカレートするにつれて、怒りを感じ、悔しいと思った。 ● 最初は驚いて、怖さを感じた。次に、「ふざけるな」という気持ちになった。 ● 徐々に怒りがこみあげた。 ● 怒りを感じ、反撃したいと思った。 ● 以前の被害時には声をあげられなかったため、次に被害にあったときには加害者を捕まえてやりたいと思っていた。 ● 最初はびっくりした気持ちが強くて、鼓動が早くなる感じだったが、その後は腹立たしい気持ちになった。

誰かが行動を起こさない限り、痴漢行為は一定時間継続する

- 被害者もしくは周囲の人が痴漢行為を止める行動を起こさない限り、痴漢行為は数分～十数分間程度（被害者や加害者が降車等するまで）、続くことが示唆されている。
- また、この間、痴漢行為はより悪質なものにエスカレートすることもある。

【痴漢行為に気づいてから確信するまでの経緯】

- 満員電車の中で、お尻に股間を押し付けてきた。停車の都度、乗客が増えて、ほぼ動けない状態にあり、痴漢行為は降りる駅まで2～3駅にわたって継続された。
- 加害者が肘で胸に触る行為は、次第にエスカレートし、かなり強い力で押すようになった。4駅分くらいは痴漢行為が続いた。
- 衣服越しに手で身体を触る行為は、一駅程度、5分くらい続いたと思う。
- 身をよじっても止まらない痴漢行為は、1駅分（2～3分）の間続いた。
- 痴漢行為は2～3駅（10分弱）続いた。その間、お尻を触る手の力が徐々に強くなっていった。
- 密着→衣服越しに触わる→スカート内に手を入れ肌を直に触わる、とエスカレートし、痴漢行為は5分ほど続いた。

被害者は、加害者の顔を見ることは容易ではないが、断片的情報を入手している

- 恐怖のため、また混雑した車中で後ろを振り返ることが困難なため、被害者が加害者の顔を見ることは容易ではないが、その中で得られた／視界に入った情報（年代・身長・服装等）は記憶している状況がうかがえる。
- 届け出等をしなかった方の理由として、加害者情報を得られなかったことが挙げられており（後述）、困難な状況の中で、被害者だけでなく周囲の協力も含め、いかに加害者情報を入手するかも重要と言える。

【加害者の顔を見ることができなかったケース】

- 混雑した車中で加害者の顔を見ることは難しかった。何より怖さで振り向く勇気がなかった。
- かなり混雑していて後ろを見ることはできず、誰が加害者かはわからなかった。
- 同じ駅で加害者が先に降り、足早に去ったため、顔を見ることはできなかった。
- 周囲の人が痴漢に気づいた後、ドアが開いた瞬間に加害者が下車して逃げたため、加害者の顔を見ることはできなかった。
- 身長が自分より高く、見上げて目が合ってしまうのが怖く、加害者の顔は見れなかった。加害者は30～40代くらいの男性でスーツ姿。ワインレッド色の何かを身に着けていた。
- 加害者はやや肥満体型の30代男性。上下白の私服で、痴漢の割に目立つ服装と思った。
- ホームでの通り際の痴漢行為だったため、後ろ姿しか見られなかったが、加害者は30代後半の男性で、若々しい派手な青いスーツ（パーティー帰りっぽい）を着たやや肥満体型の人だった。

【加害者の顔を見ることができたケース】

- 電車が駅で停車したときに加害者を見た。加害者は20～30代で、私服で小太りな体型。ハーフパンツをはいて、セカンドバッグを持っていた。坊主頭で、パリピ系（クラブにいそうな人）な雰囲気な人だった。
- 隣に立っていた加害者は40代後半で、背は高くなく、普通の体型をしたサラリーマン（スーツ着用）。どちらかという、小柄な印象を受ける人だった。
- 相手の顔を一瞬にらんだ。加害者は30代半ばくらいの男性で、スーツを着たサラリーマン風。
- 加害者は170cmぐらいのやせ型の男性で、眼鏡をかけ、チェックのシャツを着ていた。

注：表記は一例であり、加害者の人物像を示したものではない。

周囲の人は気づきにくいですが、気づいた方は介入してくれることも

- 混雑車中の見えにくい場所での行為であること、スマホや音楽を楽しむ乗客が多いこと等から、周囲の人が痴漢行為に気づくケースは多くはない。
- 周囲の人が気づいた場合、特段の介入行動を取ってくれないケースもあるが、被害者に声をかけたり、加害者に注意したりするケースもみられている（その場合にも、痴漢行為と確証を得るまでに一定の時間を要することもある）。

気づいた／気づかなかった	周囲の人の状況
気づかなかった（と思う）	<ul style="list-style-type: none"> ● 周りの人を見る余裕まではなかったため、周囲が気づいていたかはわからない。 ● 夜の時間帯で、車内はざわついており、周囲の人は痴漢行為に気づかなかった。 ● 周りの人はスマホを見たり、音楽を聴いたりしていて、周りに気持ちを向けている感じはなく、一切気づかれていなかった。 ● 自分は身長が低く、非常に混雑した車内であったため、周囲の人は痴漢には気がつかなかったと思う。 ● 混雑した車中での下半身への痴漢行為は、周囲の人が気づきにくい位置で行われている。何回か痴漢行為にあっているが、周囲に気づかれたことはない。
気づいた（と思う）	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の様子をちらちらとうかがっている人はいたような気がするが、声をかけたり、助けてくれたりした人はいなかった。 ● 友人が「痴漢されているよ」と教えてくれた声が聞こえた人がちらっとこちらを見たが、特に何もしてくれなかった。 ● 向かいの男性が痴漢行為に気づき、加害者に「何をやってるんだ」と言ってくれた。最初から痴漢行為を見ていたと思うが、加害者に声をかけるまで、数分はかかったように思う。 ● 周囲にいた女性が痴漢行為に気づき、見かねて、「こっちに来てください」、「大丈夫ですか」と声をかけてくれた。 ● 友人が「痴漢だ」と叫んだ時に、声を出した友人の方を見ている人はいた。しかし、我関せずという感じで、特に声をかける等の行動を取ってくれる人はいなかった。

被害者には、周囲の人に助けてもらいたい気持ちがある

- 助けを求めることができない場合にも、気づいてほしい、気づいたら声かけをしてほしい、加害者に注意してほしい等と願う意見が多くみられる。
- 周囲の人が行動を起こしてくれた際には安堵や感謝がみられる。一方で、声をあげたが助けが得られなかった場合の落胆も大きい。

【周囲の人への期待・願い等】

- 混んでいる中で身体を動かして痴漢を避けようとしている様子に周りが気づいて、「どうしたのかな」、「あれ？」と思ってくれるとよかった。もし気づいたら、止めに入ってくるとよかった。
- もし気がついていたら、痴漢行為を止めたり、声をかけたりしてほしかった。
- 周囲の人が声をかけてくれたら、もっと早く痴漢行為が止んだのではと思った。
- 例えば、知り合いのふりをして、「久しぶり、偶然だね」と声をかけてくれたら、加害者への牽制にもなり、自分自身も少し余裕が持てたかもしれない。
- もし気がついていたら、加害者の行為を止めたり、加害者を注意したりしてくれるとよい。また、加害者を引き留めてくれると、そのまま警察や駅員に引き渡すこともできたと思う。
- 「誰か気づいて！」、「加害者に一声かけて！」と叫びたかった。
- 周囲の人には、助けたり声をかけたりしてほしかったが、男性に声をかけられたら余計に恐怖を感じてしまったと思う。可能なら女性に声をかけてもらえればよかった。
- 本心では周囲の人に助けてほしかったが、かえって大事になってしまうよりはよいと自分に言い聞かせた。
- 自分ではなかなか言い出せなかったので、周囲の人が声をかけて助けてくれた時はホッとした。
- 大声で助けを求めたが、周囲の人は驚いたり、オロオロしたりする様子で、遅刻したくないので考え巻き込まれないようにという感じがして、誰も助けてくれなかった。声をあげれば周囲が助けてくれるものと想像していたが、現実とは全く違ったので、落胆した。
- 「痴漢だ」と叫んだ時に、周りにいる男性等が「どの人？」と声をかけてくれて、捕まえようとしてくれてもよかったのではと感じる。

何もできなかった／我慢した被害者の心情：怖さ、戸惑い、気兼ね

- 加害者に対して何もできなかった／痴漢行為を我慢したとの被害者においては、怖くて動けなかった、声をあげることに對して迷いや戸惑いがあった、周囲の迷惑を考え気兼ねした等の心情がみられている。
- 恐怖に関しては、声をあげる等のハードルが高い行動なしに痴漢被害を伝える方法の検討、迷い・戸惑いや気兼ねに関しては、被害者がこのような心情にならなくてもよいように、被害予防教育や、社会全体の意識醸成が重要と言える。

心情の区分	被害者の心情
恐くて動けなかった	<ul style="list-style-type: none">・ 突然の出来事でどうしてよいかわからなかった。・ 助けを求めてさらに何か起こったらと怖くなり、何もできなかった。・ 車中で声をあげることは怖かった。・ 自分が動くことは、加害者を刺激するだけと思い、我慢せざるを得なかった。・ 声をあげると相手が逆上するのではないかと思い、恐怖のためできなかった。・ 加害者の手を掴む、振り返って加害者の顔を見るなどの勇氣は持てなかった。・ 降車駅まで近いこともあり、過剰な反応をせずにやり過ごそうとした。
迷い・戸惑いがあった	<ul style="list-style-type: none">・ 目立つのも嫌なので、何もできなかった。・ 周囲が痴漢と認識してない中で、「この人痴漢です」と言うことに迷った。・ 自分の勘違いだったらどうしようと思い、周囲に助けを求めてよいか迷った。
周囲への気兼ね	<ul style="list-style-type: none">・ 声をあげてしまうと、周囲を巻き込み、迷惑をかけるのではないかと気が引けた。・ 周囲の人へ目線でアピールするのも難しいと感じる。・ 痴漢行為には抵抗したいが、周囲を巻き込みたくなかったため、声を掛けられなかったのはむしろよかった。

痴漢行為をやめさせた被害者の心情・行動：怒り、自衛、事前の対策

- 痴漢行為をやめさせた行動としては、加害者をにらんだ、足を踏んだ、手首をつかんだ、声をあげた、問い詰めた、追いかけた等がみられる。
- 恐怖よりも怒り・悔しさの心情が上回った、（周囲の助けを期待せず）自衛を考えていた、以前に被害にあつて際に対策を考えていた等の心情をもとに、行動が起こされている。
- 一方、行動後に恐怖や安堵の感情が高ぶる状況もみられており、極限の精神状態での行動だったことがうかがえる。

※前述のように、実際には恐怖等からこれらの行動を取れない被害者の方が多数である。行動を取れないことは決して被害者の責ではない。

行動の区分	被害者の心情・行動
加害者をにらみ、足を踏んだ	<ul style="list-style-type: none"> ● 最初は嫌悪に感じたが、徐々に怒りが強まった。 ● 加害者の顔をにらんでから、相手の靴を踏んだら、加害者は離れていった。 ● 痴漢に気がつかない人がほとんどだと思うので、周囲の人の助けをあてにするよりは、自衛が必要と考えている。
加害者の手首をつかんだ、声をあげた	<ul style="list-style-type: none"> ● スカート内に入ってきた加害者の手をつかもうとしたが、相手の手で払われてしまった。 ● 次に声で「やめてください！」と言うと、加害者は車両を移動し、逃げていった。 ● 以前の被害時に何もできなかったため、対策を考えており、次は加害者を捕まえてやりたいと思っていた。 ● 周囲の助けは期待せず、自分一人で痴漢を止めたいと思った。 ● 加害者に怒りを感じ、反撃したいと思い、加害者の手首を掴んで「助けて！」と声を発した。 ● 周囲の乗客が3～4名（男女）が加害者を確保し、駅に降した。女性の乗客は、「こちらに身を寄せなさい」と被害者を守ってくれた。加害者は警察署へ連行された。 ● 加害者が駅に降ろされた時、加害者のズボンのチャックが下ろされていたことを目撃し、怖くなった。もしそれを知っていたら、手首を掴む勇気は出なかったと思う。
問い詰めた、追いかけた*	<ul style="list-style-type: none"> ● 背後で携帯カメラのシャッター音を聞き振り返ると、加害者がスカートの中に携帯を入れていた。 ● 盗撮をしたことを問い詰め、加害者が逃げたので、データ消去をさせるように車内を追いかけた。 ● 駅でドアが開き、加害者が降りて逃げたので、「その人痴漢です。捕まえてください」と叫んだところ、ホームにいた警備員数名が加害者を捕まえた。 ● 以前にも被害を受け悔しい思いをしたため、追いかける行動を取ったが、後から考えると危険だったかもと怖くなった。 ● 警備員が加害者を取り押さえてくれた時は、安堵の気持ちが湧いてきて、涙が止まらなかった。

*盗撮のケース。盗撮は本調査における痴漢行為の対象としていないが、逮捕につながったケースでもあるため、記載した。

痴漢行為をやめさせた周囲の人の行動：声をあげる、引き離す、注意する

- 痴漢行為に気づいた周囲の人が介入する行動として、痴漢だと声をあげてくれた、加害者と引き離してくれた、加害者に注意してくれた等のケースがみられている。
- このような周囲の第三者の行動は、痴漢被害を受けている被害者にさらなる緊張（声をあげる決断）や不安（加害者が逆上することへの恐怖）を強いることなく、痴漢を撃退する効果を発揮している。
- 被害者は、このような周囲の人の行動により痴漢行為から解放されたことで、安堵を得て、感謝している。

区分	周囲の人の行動と被害者の心情
声をあげてくれた	<ul style="list-style-type: none">● 痴漢被害に自身では気づかず、一緒にいた友人（高校生）が気づき、「お尻を触られているよ」と教えてくれた。● ドアが開くと加害者は下車して逃げた。● 友人と一緒にいたことで被害に気がつくこともでき、被害にあった後も友人がいたため、非常に安心できた。
加害者と引き離してくれた	<ul style="list-style-type: none">● 周囲にいた女性（20代後半くらい）が痴漢被害に気づき、見かねて被害者の肩を叩き、「こっちに来てください」と加害者と引き離してくれた。また、「大丈夫ですか」と声をかけてくれた。● 自分ではなかなか言い出せず、降車駅まで我慢してやり過ごすしかないと考えていたので、声をかけて助けてくれた時はホッとした。
加害者に注意してくれた	<ul style="list-style-type: none">● 痴漢行為が見える位置にいた男性（30代前半、がっちりした体格）が痴漢に気づき、加害者に対し「何をやってるんだ」と言ってくれた。● 次の駅まで我慢しなければならなかったと思うので、非常に嬉しかった。助けてもらって、安堵と感謝の気持ちでいっぱいだった。

届け出・相談・連絡状況①：家族・友人への相談で気持ちが楽になった例

家族・友人に相談した方

- 警察等に話せなかった方も、家族・友人に相談をしているケースは複数みられる。
- 家族・友人に相談することで、気分が楽になったとの意見がみられる。予防についての話し合いがされたケースもある。
- 一方で、家族・友人への相談から、警察等公的機関への届け出・相談・連絡につながったケースはない。

【家族・友人に相談した方の状況】

- 家族に相談でき、少し楽な気持ちになった。話してよかった。
- 家族に話し、相談に乗ってもらった。家族からは、警察等に届け出た方がよいとは言われなかったため、届出はしなかった。
- 友人には被害を相談して、その後少し気分が軽くなった。
- 家族や友人に話をしたことで、自分で抱え込まずに済んだ。両親とは「制服のスカートが短いと被害にあいやすいのではないか」等、自分が対策できることについて話し合ったため、予防面でも話をしてよかった。

届け出・相談・連絡状況②：時間がない・相談してもむだ等が届け出ない理由

警察・相談機関等に届け出・相談・連絡しなかった方の理由

- 届け出等をしなかった方からは、その理由として、時間なかった、面倒だった、被害を話すことに抵抗感があった、対応してもらえないと思った、犯人が捕まらないのであれば意味がないと思った、事情聴取等で時間がかかる等が挙げられている。
- 知らない大人には話しにくい、証拠がないから届け出ない等と考えている方も多く、公的機関側からの情報発信等の働きかけも重要と言える。

区分	警察・相談機関等に届け出・相談・連絡しなかった方の理由
時間なかった／ 面倒だった	<ul style="list-style-type: none">・ 通勤時で遅刻ができなかったため、警察等への届け出、連絡、相談はしなかった。・ 通学途中で被害にあったが、時間もなく、面倒に思い、相談しなかった。・ 遅い帰宅時間帯でもあり、面倒に思い、相談しなかった。
被害を話すことに 抵抗感があった	<ul style="list-style-type: none">・ 知らない大人に被害の話をするには抵抗感があった。
対応してもらえないと 思った	<ul style="list-style-type: none">・ 顔を見ることができず、加害者が誰かわからない中での届け出等は難しい。加害者が誰かわかっていれば、警察に訴えることができたと思う。・ 自分の証言以外に証拠が何もなかったため、相談してもむだと思った。加害者の顔写真を撮れたなら証拠になるので、警察に相談したかもしれない。・ 加害者が誰かがわからなくても取り合ってもらえるのであれば、報告しやすくはなるが、報告したところで、加害者が捕まるわけではない。・ 現行犯ではないのでと言われると思った。

届け出・相談・連絡状況③：本来は届け出るべきだったとの意見も

被害の届け出・相談・連絡に向けて

- 一方、本来は被害を届け出等すべき、したいと思っている被害者も少なくない。自分が被害を報告することで、次なる被害者を減らすことができるならばとの意見もみられる。

区分	被害の届け出・相談・連絡に向けた意見
本来は届け出等すべき/したかった	<ul style="list-style-type: none">• 被害直後に余裕があれば、警察等に届け出たかった。• 本来は届け出等をした方がよいのかもしれないが、その場で解決した（周囲の人に助けもらった）ので、それ以上はいいと思ってしまった。• 警察等に相談や届け出をした方がよいとは思っているが、加害者の顔を見ることができなかった状況もよいのか。• もし加害者の姿を少しでも見ていたら、警察に行ったかもしれない。• 自分が警察等に報告して、加害者がいるであろう路線、時間帯、車両等の情報を伝えることで、次の被害者を減らすことができるのであれば、届け出等をしたいと思う。• 今から思えば、加害者を見ていなくても報告する方法があったかもしれない。

Ⅲ-2 相談支援機関等ヒアリング

【調査対象】

- 性犯罪・性暴力被害者相談・支援機関（公的）
- DV被害者相談支援機関（公的）
- 被害者相談支援機関（民間）
- 学校（私立高校）
- 若者相談機関（公的）
- 女性相談機関（公的）
- 悩み相談機関（民間）
- 鉄道事業者（私鉄）

【相談支援機関からの意見】痴漢被害の相談状況①

痴漢被害を主たる対象とした相談支援機関の有無

- 現在、都内には、官民間問わず、痴漢を主たる対象としている相談支援機関はみられない。
※他道府県には、痴漢被害に特化した民間支援機関がある（例：(一社)痴漢抑止活動センター(大阪府)）。

痴漢被害の相談状況

- 痴漢被害者からの相談を、比較的多く受けているのは、性暴力や犯罪被害を主たる対象とした相談支援機関となっている（それでも年間数十件と、相談件数が多いとは言えない）。
- その際に、痴漢被害は「性暴力・性被害」を主訴とする相談として位置付けられている（「痴漢」という独立した区分で統計等は公表されていない）。
- その他の相談支援機関にも、痴漢被害の相談が寄せられることはあるが、件数的には少ない。
- 痴漢被害者からは、「被害にあって精神的にしんどい」、「加害者を捕えるにはどのような対応が必要か」等の相談内容がみられている。

【相談支援機関からの意見】痴漢被害の相談状況②

痴漢被害の相談者の傾向

- 痴漢被害の相談者の傾向は下記のとおり。

項目	傾向
相談者	● 被害者本人が多くを占めるが、保護者、関係機関（学校等）、交際相手・知人もみられる。
性別	● 女性がほとんど。
年齢	● 10～20代が多く、30～40代もみられる。被害者が小中学生の場合、保護者等からの相談が多い。
被害場所	● 電車内・駅構内に加えて、路上も多い。それ以外は、コンビニ／ショッピングモール／カラオケ屋等。
被害時間帯	● 早朝・登校・出勤時と、帰宅・退勤時が、多い。
認知ルート	● ホームページやフリーダイヤルの存在を通じて、相談機関を知る方が多い。警察からの紹介もある。
備考	● 相談機関に電話連絡をしてくる被害者においては、警察に通報済みである方も少なくない。

痴漢被害内容の傾向

- 衣服の上からお尻や胸を触られる被害が大半だが、精液をかけられる被害等もみられる。
- 盗撮への不安も高まっている（自分がわからないところで画像・動画が拡散されているのではないかな）。
- 痴漢被害により心身の状態が悪化・重症化する方もいる。心身状態の悪化は、被害時の年齢や脆弱性（若年層での被害等）、以前に受けた被害のフラッシュバック等、様々な要因が積み重なっていると相談員意見がみられた。
- 痴漢被害は、電車内や路上等、どこで、誰から加害が来るか想定できないため、家から出ること自体が怖くなってしまいう人がみられる。いつ被害にあうかわからない恐怖から行動制限されてしまうため、影響は大きいとの相談員意見がみられた。

【相談支援機関からの意見】痴漢被害の相談状況③

相談しやすい環境整備に向けた課題

- 相談支援機関の相談・支援員の方からは、下記の課題等が指摘された。

項目	課題
痴漢被害相談窓口の設置・周知	<ul style="list-style-type: none">・ 性暴力や犯罪被害を主たる対象とした相談窓口に対して、痴漢被害を相談していいのかとの躊躇が被害者にある。・ これらの窓口で痴漢被害の相談を受ける役割を強化する場合、さらなる周知と体制整備が必要である。
SNS相談の充実	<ul style="list-style-type: none">・ 若年層においては、電話相談への心理的ハードルが高く、SNS相談が適している。・ 一方、電話相談と実施方法、スキル等が異なるSNS相談（間髪を置かない返信や、文字情報のみで相談者の状況を把握することが求められる等）の開始に向けては、体制・人員の整備拡充が必要である。
証拠保全に関する周知・啓発	<ul style="list-style-type: none">・ 身体的接触がある場合、電車内の防犯カメラに加えて、衣服について加害者の体毛や汗等からDNA検出ができる場合もある。・ 防犯カメラの映像は一定期間を過ぎると上書きされ消失するため、早期の証拠保全が重要である。・ 証拠保全に関する情報が周知されてらず、証拠がないために、泣き寝入りするケースが多い。
「痴漢は犯罪」との社会的合意の形成	<ul style="list-style-type: none">・ 痴漢を「普通のこと」と思っている人も少なくない。そのような被害者は相談するという発想がない。・ 被害を受けた相談者の側に、届け出をすることで、「加害者の生活を崩壊させてしまうのではないか」との思いがあり、相談行為を妨げている。・ 「痴漢は犯罪、加害者を許さない、通報・相談してください」との社会的合意の形成、痴漢を含む性犯罪に厳しい社会づくりが重要である。

- また、各相談支援機関ともに、現業において、業務ひっ迫がみられており、さらなる相談件数の大幅増に向けては、人員体制面での整備が必要となっている。

【相談支援機関からの意見】痴漢被害者への支援状況

痴漢被害者への支援状況

- 性暴力や犯罪被害を主たる対象としている相談支援機関では、他の被害者同様、痴漢被害者に対しても下記の支援を実施している。
- 被害者からの電話相談を経て、直接支援（下記等）が必要な場合、面談相談となる。
 - 同行支援：警察署・検察庁・裁判所、弁護士事務所、病院等への同行。
 - 医療的支援：メンタル不調等がある場合に、トラウマケアやカウンセリングを実施。感染症を心配される場合に、婦人科、泌尿器科への受診を調整。
 - 法的支援：法的措置が取れそうな場合に、弁護士による相談を調整（裁判に至る過程では証拠保全が重要）。
- 一方、若者、女性の悩み・被害等、対象とする範囲が広い相談支援機関においては、痴漢被害者からの相談があった場合に、より専門的なノウハウを有する機関につなぐ役割が主となる。

【学校からの意見】痴漢被害防止に向けた取組①

学校における痴漢被害防止に向けた取組

- 痴漢被害防止に積極的に取り組む学校においては、生徒や保護者への情報提供、被害に関するアンケートの実施、痴漢抑止運動の推進、被害時等の公欠扱い、警察との連携等の取組がみられている。

取組	内容
生徒・保護者への情報提供	<ul style="list-style-type: none">• 学校行事等の際に、痴漢被害を受けないようにするための心構え、被害にあった後の対応（先生への相談・警察への届け出等）、相談を受けた側（教員・保護者等）の対応（「あなたにも隙があったのでは」や「よくあることだから仕方ない」等の言動をとらない）等について、動画等で情報を提供。• 被害にあった時の対応（音を出す、物を落とす、気分が悪くなったふりをしてしゃがみ込む等により周囲の注意を引く、駅間が短い場合は下車する等）について情報発信。
被害実態把握調査の実施	<ul style="list-style-type: none">• 痴漢被害を受ける生徒が多い一方で、周囲に相談できないケースも少なくない状況がうかがえたため、生徒にアンケート調査を実施し、痴漢被害にあった経験、被害にあった後の対応（相談・届け出の有無）、第三者としての介入の意思等を把握。• 調査結果を、担任や養護教員等に相談しやすい環境、被害生徒が声をあげやすい環境の整備等に活かしている。
痴漢抑止バッジの配布	<ul style="list-style-type: none">• 「痴漢は犯罪です」、「私たちは泣き寝入りしません」等のメッセージをデザインした痴漢抑止バッジを生徒に配布。• バッジをつけることにより誰が味方かわかるようにすることが狙う。
被害時・届け出時等の公欠扱い	<ul style="list-style-type: none">• 生徒は相談・届け出のために授業を休まなければならないことを懸念する。• 相談やその後の対応（警察への届け出含む）に要する時間について公欠扱いにし、生徒が心配なく相談できる環境を整備。気軽に相談してほしいことを発信。
警察との連携	<ul style="list-style-type: none">• 生徒指導部の教員が近隣警察署と情報交換を行う等、日頃から関係づくりを行っている。• 警察から講演協力等を得ている。• 生徒から相談を受けた場合、保護者同意の下、ほとんどのケースで警察に相談している（教員が同行）。• 継続して被害にあう生徒、加害者の顔を認識している生徒に対しては、何日間か私服警察官が通学時間帯に同行いただくこともある。

【学校からの意見】痴漢被害防止に向けた取組②

取組にあたってのポイント

- 痴漢被害防止教育を進めるにあたっては、生徒だけではなく、教員や保護者の関心を引くことも重要である。
- まずは教員がしっかり取り組む姿勢をみせることが必要である。
- その上で、痴漢被害防止教育に関しては、教員が生徒に“教える”という姿勢ではない方が望ましい。
- 社会全体の問題として、行政、警察、鉄道事業者、保護者、教員、生徒等が対等な立場で議論できる場が必要であり、生徒に対して「社会全体の問題として大事なことで、自分たちにとっても大事なこと」とのメッセージを伝えることが重要である。
- 予防教育を行った後すぐに、痴漢被害の相談が増加したり、痴漢被害が減少したりすることはない。長期的な取組と位置付ける必要がある。

痴漢被害防止教育の普及に向けた課題

- 都内各校が新たに自前で、痴漢予防教育プログラムを開発・実施していくには労力がかかる。人手・知識が不足する中、現場負担を減らしながら、教育が普及できるよう、行政サポートがあればありがたい。
- 都内各校への痴漢被害防止教育の展開に向け、教育の基礎パッケージ（プログラム、動画コンテンツ、アンケートフォーム等）が開発・提供されると、学校側は導入しやすい。生徒目線でのコンテンツが必須である。
- 形式的なマニュアルよりは、具体的な事例集の方が活用しやすい（被害相談があった時に教員がどのように対応しているのか、年間のどの時期に何に取り組んでいるか、学校・警察・鉄道事業者等が痴漢撲滅に向けどのような思いで取り組んでいるか等の事例）。

【鉄道事業者からの意見】痴漢被害防止に向けた取組①

鉄道事業者における痴漢被害防止に向けた取組

- 鉄道事業者は、ハード面での取組（女性専用車両の運用、駅構内等へのカメラの設置、盗撮対策）、広報面での取組（啓発キャンペーンの実施）を実施。
- 社員教育により、痴漢を含む法的対応が必要な事案や、痴漢被害者からの連絡・相談への対応力強化を図る。
- また、痴漢加害者情報の共有を図り、渉外専門官（警察OB）とともに加害者確保に動くケースもある。

取組	内容
女性専用車両の運用	<ul style="list-style-type: none">● 朝のラッシュ時間帯（7：10～9：30）に、最後部車両に女性専用車両を設置。
駅構内等へのカメラの設置	<ul style="list-style-type: none">● 駅構内、新型車両にカメラを設置。動画を10日～2週間程度保存。● 本来の目的は、防犯ではなく安全確認等（構内巡回を補完する用途等）。
盗撮対策	<ul style="list-style-type: none">● エスカレーターでの背後からの盗撮が多いことを受け、警察署の指導により、エスカレーターの上部に鏡を設置。背後で何が起こっているか見えるようにしている。
啓発キャンペーンの実施	<ul style="list-style-type: none">● 入試機関等において、駅構内でのアナウンスや、啓発ポスターの貼付を実施。● 関東エリア23社局・警察機関合同で実施する「痴漢撲滅キャンペーン」（6月）において、車内アナウンス、ポスター貼付を実施。
社員教育	<ul style="list-style-type: none">● 幹部社員を対象に、法的思考（法律適用に必要とされる的確な判断）マニュアルに基づく教育を実施。● 乗客からの申告や事件等を認知した際の、時系列での対応方法を学習。
被害者からの連絡・相談の受付	<ul style="list-style-type: none">● 被害者からの連絡・相談を受けた駅員は副駅長に報告。副駅長が被害者対応を行い、可能な限り助言を行う（保護者・学校への連絡、警察への届出対応等）。● 動揺が激しい被害者に対しては、女性社員が寄り添い・励まし等の対応を実施（ただし、女性社員の配置がない駅もある）。● Web上で、AIチャットボットが質問や意見を受け付けており、そこにも痴漢の相談が寄せられる。

注：本頁の記述は、鉄道事業者1社に対して行ったヒアリングに基づくものであり、鉄道事業者全体の取組や意見等を示したものではない。

【鉄道事業者からの意見】痴漢被害防止に向けた取組②

取組	内容
痴漢加害者情報の共有	<ul style="list-style-type: none">痴漢被害の連絡・相談があった場合は、全線の副駅長に情報共有し、警戒を呼び掛ける。加害者の顔がわからなくても、服装、持ち物、靴の色等がわかれば情報共有している。
渉外専門官の配置	<ul style="list-style-type: none">渉外専門官（警察OB）3名が、主要駅に配置されている。主に刑事罰に相当する事案が起こった際に、渉外専門官との連携が取られる。渉外専門官等の協力を得て、加害者確保に動く場合もある。

駅職員に連絡・相談してくる痴漢被害者の状況

- 駅職員に連絡・相談してくる被害者の7～8割は中高生女子である。
- 印象として、その3割程度が極度の動揺・パニック状態（泣いて言葉にならない、聴取もままならない等）にある。驚き、恐怖、羞恥等の感情が混交していると感じる。
- 被害者に多い特徴として、1人で乗車、制服着用、見た目がおとなしそう等が挙げられる。スカート丈が長短は関係なく、被害にあっている。
- 保護者には、どのような対応をするかお話を伺いつつも、「この子が何もしないと加害者に認識されると、再度狙われる可能性がある」ことを伝えている。

注：本頁の記述は、鉄道事業者1社に対して行ったヒアリングに基づくものであり、鉄道事業者全体の取組や意見等を示したのではない。

【鉄道事業者からの意見】痴漢被害防止に向けた取組③

痴漢被害防止策の拡充に向けた課題

（女性専用車両、女性専用施設の形骸化の恐れ）

- 女性専用車両に反対する団体等の活動により、女性専用車両に乗車している男性に対する鉄道会社側の対応に制約が生じており、形骸化する恐れがある。
- LGBT理解増進法の施行により、性別に基づく女性専用施設の利用判断基準やその後の対処に苦慮するケースが増えている。ガイドライン等の制定が急がれる。

注：本頁の記述は、鉄道事業者1社に対して行ったヒアリングに基づくものであり、鉄道事業者全体の取組や意見等を示したものではない。

【共通意見】行政・社会に求めること①

- 痴漢撲滅に向け行政・社会に求めることとして、下記事項が要望された。

項目	課題
車内広報の充実	<ul style="list-style-type: none">・ 車内アナウンスだけでなく、広報媒体等で痴漢撲滅・抑止へ向けてアピールしてもらえるとよい。・ 東京都からの発信という形で、広報媒体に動画を流せるとよい。・ これにより、被害者や第三者が声をあげるための心理的ハードルが下がるのではないか。
「痴漢は性暴力」との社会的意識の向上	<ul style="list-style-type: none">・ 「痴漢」という言葉は軽く、かつ加害者を表現する語であり、痴漢を軽んじている人は少なくない。・ そのような誤った常識を正し、「痴漢は性暴力」との社会の認知度を高めてほしい。・ 被害を防ぐアプローチに加えて、加害を止めさせるアプローチに注力されたい。・ 若い世代への広報手段としては、YouTubeショート動画やTikTokの効果が大きい。SNS広告（LINE、Instagram、X等）も有効。
証拠保全等に向けた取組の充実	<ul style="list-style-type: none">・ 加害の抑止、証拠の保全、届け出の促進等に向け、痴漢が起こりやすい場所への防犯カメラの増設には意義が大きい。
被害者カウンセリングの無料化	<ul style="list-style-type: none">・ PTSD、トラウマに悩む被害者には医療的支援（カウンセリング等）が重要。・ 現状、加害者のカウンセリング5回が無料となっている。被害者カウンセリングも無料にすべき。・ カウンセラーの確保・育成も急務。
性犯罪者に対する治療	<ul style="list-style-type: none">・ 性犯罪は、常習性が高く、自己の理性が及ばない一種の「病」であると思われるため、一個人の問題と捉えるのではなく、社会全体で「病」に向き合う姿勢、取組が必要である。

【共通意見】行政・社会に求めること②

項目	課題
警告システムの構築	<ul style="list-style-type: none">• 刑罰そのものの厳罰化、氏名公表等の社会的制裁により、一定の抑止効果は望めるが、性犯罪は常習性が高く、本人の自制心や理性が働かず、行為を繰り返す。• 他国で行っているように性犯罪歴者へのタグの装着を義務化し、アプリ等によって性犯罪歴者が近くにいることを周囲に警告するようなシステムを構築し、能動的に犯罪から遠ざかる術が必要と思われる。
一極集中の通勤・通学の解消に向けた官民連携	<ul style="list-style-type: none">• 東京一極集中傾向が今後も続けば、女性の社会進出により増加する女性利用客が、60分超の乗車時間において痴漢被害にあう機会も増加すると予測される。• 一極集中の通勤・通学の解消に向け、都や鉄道事業者、一般企業等が下記的手段等により連携することが望まれる。<ul style="list-style-type: none">➢ 始業時刻の分散化 ⇒ 義務化または協力機関への優遇措置➢ オンライン授業・在宅勤務の定着化 ⇒ 義務化または協力機関への優遇措置➢ オフピーク通勤の普及

IV 調査結果の考察

アンケート調査、ヒアリング調査の結果から、痴漢被害・目撃経験、痴漢被害の実態、痴漢を止める対応、届け出・連絡状況について総合的に分析し、痴漢撲滅に向けた施策検討の方向性を打ち出す。

痴漢被害・目撃経験①

痴漢被害経験（生涯経験）：場所を問わない被害率は29.9%、電車関連は27.1%

- WEB調査の結果、東京都在住および東京都へ通勤・通学する16～69歳の方のうち、生涯で痴漢被害を経験した（「ある」、「確証はないがおそらくある」との回答の和）方の比率（＝痴漢被害率）は、29.9%となった。
- そのうち、電車に関連して生じている被害（電車内もしくは／及び駅構内での被害）の被害率は27.1%となる。

生涯の痴漢被害率（被害場所は複数回答）

被害場所	被害率
痴漢被害（場所を問わず）	29.9%
A 電車内	25.9%
B 駅構内	2.8%
C 電車関連（A and/or B）	27.1%
D バス内	1.4%
E 路上	4.6%
F 商業施設・店舗	1.8%
G その他	0.5%

痴漢被害・目撃経験②

痴漢被害経験（ここ1年）：場所を問わない被害率は8.3%、電車関連は7.7%

- ここ1年間の被害に絞ると、痴漢被害を経験した（「ある」、「確証はないがおそらくある」との回答の和）方の比率（＝痴漢被害率）は、8.3%となった。
- そのうち、電車に関連して生じている被害（電車内もしくは／及び駅構内での被害）の被害率は7.7%となる。
- 東京都の人口及び通勤・通学人口の規模を考慮すると、これらは決して小さい数値とは言えない。痴漢被害の多さがうかがえる。

ここ1年の痴漢被害率（被害場所は複数回答）

被害場所	被害率
痴漢被害（場所を問わず）	8.3%
A 電車内	7.0%
B 駅構内	0.8%
C 電車関連（A and/or B）	7.7%
D バス内	0.6%
E 路上	0.5%
F 商業施設・店舗	0.2%
G その他	0.1%

痴漢被害・目撃経験②

電車内・駅構内での痴漢被害経験（生涯経験）：被害率は27.1%（女性41.1%、男性7.8%）

- WEB調査の結果、電車内・駅構内での痴漢被害率（生涯経験率）は27.1%となった。
- その多くは女性であり、女性に絞ると被害率は41.1%まで上昇する。一方、男性7.8%、ノンバイナリー／Xジェンダー33.9%の被害率となっており、痴漢被害は女性だけに限るものではない。
- 生涯被害をみると、年代別に大きな差はなく、多くの年代で痴漢を経験してきたことがうかがえる（ここ1年の被害に絞ると、16～19歳、20～24歳の区分で被害率が高い）。

電車内・駅構内での痴漢目撃・居合わせ経験（生涯経験）：目撃・居合わせ経験率は11.2%

- WEB調査の結果、電車内・駅構内での痴漢目撃・居合わせ率（生涯経験率）は11.2%となった。当初想定した数値より高い結果となった。
- また、目撃・居合わせ率は、性・性自認別、年代別に大きな差がないことがわかった。
- 痴漢行為に気づき、痴漢を防ぐという第三者としての役割を果たし得る方々が、一定数存在することがわかった。

【再掲】電車内・駅構内の痴漢被害経験および目撃・居合わせ経験（複数回答）

被害経験あり	2243	(27.1%)
目撃・居合わせ経験あり	931	(11.2%)
被害・目撃等経験なし	5687	(68.7%)
回答件数	8284	

痴漢被害・目撃経験③

最初に痴漢被害にあったときの職業・学校：高校生が最多、若年齢化の様相も

- WEB調査では、電車内・駅構内で、最初に痴漢被害にあったときの職業・学校としては、高校生が1/3超と最も多い結果となった。
- 被害経験者および相談支援機関等ヒアリング調査や、有識者意見からも、制服を着用する中高生等がターゲットになりやすい状況が示唆されている。
- WEB調査において10代の被害者からの回答をみると、20代以上と比べて、最初に被害にあったときを中学生、高校生とする比率が高くなっている。鉄道事業者へのヒアリング調査からも、駅職員に相談をしてくる被害者には中学生も少なくないとのことであり、痴漢被害が若年齢化していることも考えられる。

【参考】回答者全体および10代／20代以上別、最初に痴漢被害のあったときの職業・学校

	全体	小学生	中学生	高校生	専門学校生・短大生	大学生・大学院生	会社員・公務員	パート・アルバイト	自営業・自由業	専業主婦・主夫	無職	その他
全体	595 (100.0%)	30 (5.0%)	73 (12.3%)	198 (33.3%)	20 (3.4%)	117 (19.7%)	138 (23.2%)	10 (1.7%)	2 (0.3%)	0 (0.0%)	7 (1.2%)	0 (0.0%)
10代	147 (100.0%)	4 (2.7%)	31 (21.1%)	74 (50.3%)	7 (4.8%)	29 (19.7%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)
20代以上	448 (100.0%)	26 (5.8%)	42 (9.4%)	124 (27.7%)	13 (2.9%)	88 (19.6%)	137 (30.6%)	10 (2.2%)	2 (0.4%)	0 (0.0%)	6 (1.3%)	0 (0.0%)

痴漢被害の実態①

痴漢被害にあいやすい状況・場所：下記状況・場所等における重点的な対策や、情報提供が望まれる

- WEB調査およびヒアリング調査からは、痴漢被害にあいやすい状況・場所として下記の傾向が確認された。

項目	課題
時期	6～7月（軽装になる時期 ※夏季休暇時には減少）、4～5月（新学期・新年度）
時間帯	朝のラッシュ時間帯
混雑状況	混雑状況が高くなるほど被害が多い（身動きできない状況では減少）
車両の位置	改札・階段等に近い車両
車両内の位置	ドア付近およびドアとドアの間のスペース
その他	1人で乗車している、制服を着用している 等

- これらの状況・場所において重点的に対策を施すことが重要である。特に、混雑状況と痴漢被害との関係は明らかと言えるため、混雑緩和策が重要である。
- また、被害経験者ヒアリング調査からは、痴漢被害にあいやすい状況・場所等についての情報提供や周知活動への要望もみられた。

痴漢被害の実態②

痴漢被害の内容：加害者の手口を周知することが重要

- WEB調査および被害経験者ヒアリング調査からは、痴漢被害の内容として、衣服ごしに体を触られた、体を密着された等の行為が多いとの回答が得られた。
- さらに、駅構内の被害では髪を触られた、男性の被害では息を吹きかけられた、匂いをかがれた等も比較的多くみられる。
- 痴漢と気づき確信するまでにやや時間を要することも少なくない。最初は手や体が触れる程度の接触から始まり、相手の反応を見ながら接触を強める、露骨に触る等してくるケースが多いためである。身体の位置を変えて避けようとしたところ、加害者の手や体がついてきたために痴漢と確信するケースが多い。
- 被害者および第三者（痴漢行為を目撃した／居合わせた方）となる可能性のある市民に対し、痴漢行為とはどのようなこと（定義）で、どのように始まり、エスカレートしていくか等について、周知を図ることが重要である。

被害者の心情と対応：被害者が行動を起こすことの難しさにつけこむ加害者

- WEB調査および被害経験者ヒアリング調査からは、被害時の心情としては、「驚き」、「嫌悪」、「羞恥」、「恐怖」、「怒り・悔しさ」等が複雑に交差する状況になることが示唆された。
- そのような状況下で、被害者が我慢した・何もできなかったとする状況、周囲の人も気づかない状況が多くみられる。加害者にとっては好ましい状況とすることができる。
- 被害者もしくは周囲の人が痴漢行為を止める行動を起こさない限り、痴漢行為は数分～十数分間程度（被害者や加害者が降車等するまで）続くことが示唆され、その間、さらに悪質なものにエスカレートすることも懸念される。
- 長く続く痴漢行為に我慢する状況は、被害者の心身に悪影響を及ぼす可能性を高める。この状況に対して、被害者だけではなく、第三者がアクションを起こせるかが鍵となる。

痴漢被害の実態③

痴漢被害の心身への影響：心身状態が悪化する場合、電車に乗る、外出する等の行動自体が怖くなることも

- WEB調査からは、痴漢被害後の心身への影響について、特に影響はなかったとの回答が5～6割との一方で、フラッシュバック、電車に乗れなくなった、加害者と同じ性別の人を避けるようになった、人間不信になったとの回答も、それぞれ1割前後みられた。痴漢被害により心身の状態が悪化・重症化する方の存在を認識することが必要である。
- 相談支援機関等ヒアリング調査では、痴漢行為の度合いというよりも、被害者側のさまざまな要因（被害時の年齢が低い、以前に受けた被害の積み重ね等）により精神的に脆弱になっている状況において、被害が心身状態の悪化につながりやすいとの意見もみられた。
- 痴漢被害は、電車内や路上等、どこで、誰から被害を受けるかが想定できないため、電車に乗ること、家から出ること自体が怖くなってしまふ人がみられる。いつ被害にあうかわからない恐怖から行動制限されることになれば、被害の影響は大きいと言える。
- このような状況に苦しむ被害者に対しては、カウンセリングの無料化等の対応検討も望まれる。

痴漢を止める対応①

痴漢被害にあったときの対応：多くの痴漢は、被害者が対応を取れば止めることができるが、心理的負担も大きい

- WEB調査からは、痴漢行為を被害者がやめさせたケースは1割強程度となったが、被害者が対応を取った場合には、痴漢が止まったとする回答が7～8割に達した。
- 加害者にとって、被害者や第三者に対応をとられると、逮捕のリスクが一気に高まる。例として、被害経験者ヒアリング調査においても、被害者が被害を止めるための対応（加害者をにらむ、足を踏む、手首をつかむ、声をあげる、追いかける等）をとった4件のうち、2件で検挙に至っている。
- 被害経験者ヒアリング調査では、痴漢を止めるための対応をとった被害者には、恐怖よりも怒り・悔しさの心情が上回った、周囲の助けを期待せずに自衛することを考えていた、以前に被害にあった際に対策を考えていた等の共通要因もみられた。
- 一方で、これらの方にあっても、痴漢を止めるための行動を取った後に、恐怖や安堵で感情が高ぶる状況もみられており、極限の精神状態の中での行動だったことがよくわかる。
- 具体的な対応を取れる被害者ばかりではないことは自明である。現在、痴漢被害にあっている状況を画面で知らせるスマートフォンアプリも普及しているが、心理的負担を少しでも下げながら、痴漢被害を周囲に知らせ、助けを求めることができる環境づくりが望まれる。

痴漢を止める対応②

痴漢被害を目撃した時の対応：多くの痴漢は、第三者が対応を取れば止めることができる

- WEB調査からは、周囲の人が痴漢に気づいたと回答した被害者は1割程度となっている。また、痴漢行為を第三者がやめさせたケースは数%にとどまる。
- 一方で、痴漢行為に気づいた場合には、周囲の人が助けてくれたと回答する被害者は5～6割となった。驚き・恐怖・羞恥の最中にいる被害者よりは、第三者の方が行動を起こしやすいと思われ、その役割が期待される。
- 第三者が痴漢に気づいたきっかけとしては、下記等が挙げられた。
 - ①困っている様子の被害者に気がついた
 - ②被害者が声を出して助けを求めた
 - ③周囲の人が声を出して助けを求めた
- 実際に、被害者を助けた方法として下記等が挙げられた。その際、周囲の人と連携すべく、目配せや合図をする行動もとられている。
 - ①直接、加害者の行為を止めた（加害者を注意する等）
 - ②被害者に声をかける（大丈夫ですか、困っていますか、具合が悪いですか等）
 - ③加害者と引き離す（こっちに来なさい等）
- 第三者が対応をとった場合に、痴漢が止まったとする被害者の回答は9割超に達している。
- 第三者が痴漢被害に気がついても行動をしなかった理由の1位に、痴漢と確証を持てなかったことが挙げられている。被害者の周囲の人に対し、痴漢被害を確証してもらうようなメッセージを発信する仕組みづくりが重要である。または、確証が持てなくとも、さりげない行動によって痴漢を「止めさせる」という視点があってもよい。

痴漢を止める対応③

「周囲の人が痴漢を防ぐ」：この考え方を広め、周囲の介入行動を増やしていくことが重要

- WEB調査からは、「周囲の人が痴漢を防ぐ」との考え方の認知率は約1/3となっている。また、次に痴漢を目撃したら行動を取りたいとの回答も5割弱となっている。
- これらの回答比率は、男性や、10代（被害を受けやすい層と同世代）および40～60代（年長者）で高くなっている。これらの性・年代層を中心に、さらに他層にも、周囲から痴漢を防ぐ役割を担ってもらうことが期待される。
- 第三者が痴漢を止めたり、被害者を助けたりする際に、周囲の人が一緒に行動してくれること、被害者が助けを求めてくること、痴漢をとがめることが当然という意識を皆が持っていること等の条件・環境が整うと、行動を起こしやすくなるとの回答が得られた。
- 学校のヒアリング調査では、周囲の人ができる行動として“5つのD”（下記）を基に検討している事例もみられた。

【5つのD（周囲の人ができる行動）】

- ①Distract：注意をそらす（嫌がらせを受けている人の知人のふりをする等）
- ②Delegate：第三者に助けを求める（駅員、周囲の人に介入してもらう等）
- ③Document：証拠を残す（画像等で証拠を残す等）
- ④Delay：後でフォローする（被害者に大丈夫か、サポートできる方法があるかたずねる等）
- ⑤Direct：直接介入する

届け出・連絡状況①

届け出・連絡・相談状況、届け出等しなかった理由：

被害者や第三者に、時間的余裕がない中で連絡等をしてもらう環境づくりへ

- WEB調査結果では、痴漢被害を誰にも連絡等していないとの回答が、被害直後では6割強、被害のしばらく後では7割強となった。被害を誰にも話さず、自分の中で消化する／自分で抱え込む被害者が多いことがうかがえる。
- 届け出・連絡・相談等をしない2大理由は、めんどうだから、時間がないからである。朝のラッシュ時においては、遅刻等できないことが背景に挙げられるが、有識者意見によると、加害者もそのようなことを承知で学生や会社員等を狙っている状況があるという。
- 届け出・連絡・相談等をしない理由として、次いで、痴漢か確信が持てなかったから、大したことではなかったからも多い。
- 一方で、誰か（友人・知人、家族、駅職員、警察、相談機関等）に相談した結果、気持ちが楽になったとする被害者は5～6割となっている。相談等により、被害者の心理的ダメージが一定程度和らげられる状況がうかがえる（ただし、二次被害を生じさせないような対応充実が重要）。
- 被害者が被害を潜在化させてしまうことは、加害者を利することにつながる。何からの形で、被害を連絡する仕組みの充実が望まれる。気軽に届け出る・連絡する方法があれば何かしたかったとする被害者も少なくないことから、ICT等を活用して、短時間で被害を連絡する方法にも検討の余地がある。上記のように、時間が経過するほど、届け出・連絡・相談の企図は薄れてしまう。被害後すぐに連絡等をしてもらう環境整備が重要である。
- また、社会に「痴漢は大したことではない」との通念があるならば、痴漢とはどのような行為か、痴漢は犯罪であること等を周知することが重要となる。

届け出・連絡状況②

届け出等しなかった理由：加害者の顔を見れなくても、被害を連絡してもらえる環境づくりへ

- WEB調査では、被害を届け出・連絡・相談しなかった理由として、犯人が捕まらないと思ったからとの意見も一定数みられる。
- 被害者には、不意のことで、かつ恐怖から、加害者の顔を見ることができなかったとする人も多い。
- 一方で、被害者は、加害者の顔がわからなくても、年代、身長、服装等の情報を得ている場合がある。
- 痴漢被害の発生状況や、被害者が得た加害者情報を東京都に連絡してもらうことで、東京都の関係機関による痴漢対策に活かすことも可能である。そのための仕組みづくりや、「加害者の顔を見ていなくても、被害を連絡できること、連絡の意義があること」の周知活動が重要である。

届け出・連絡状況③

相談機関への相談状況、相談支援機関の対応状況：痴漢専門の相談窓口機能が望まれる

- WEB調査からは、相談機関へ相談した被害者は数%と少ないことがうかがえた。
- 相談しなかった理由として、どのような相談機関があるか不明、相談機関の連絡先がわからないとの回答がそれぞれ1割弱みられた。また、相談機関に対する印象としては、どのようなことをしてくれるかがわからない、どの機関に相談してよいかわからない、どのような相談方法があるかがわからないとの意見が多い。
- この一因として、痴漢専門の相談窓口の不在がある。相談支援機関等ヒアリング調査では、都内には、性犯罪被害者、DV被害者、女性、若者等を対象とした相談支援機関は存在するが、痴漢を主対象とし「痴漢」とうたった相談窓口はないため、相談を意図した被害者がいても、どこに相談していいのかわかりにくい状況にあることが指摘された（痴漢被害者が、性犯罪被害の相談窓口で痴漢を相談してよいのかと迷うシーンもみられるという）。
- 一方、上記の性犯罪被害者、DV被害者、女性、若者等を対象とした相談支援機関では、各分野における専門性を有した相談支援員を配置し、相談者ニーズに沿った支援を行っている。そのため、機関によっては、痴漢相談・支援に特化した人員体制が十分とは言えず、傾聴・寄り添い等の対応は行えても、具体的行動が必要な時には警察等につないでいる様子もうかがえた。
- 現状では、性暴力や犯罪被害を主対象とした相談支援機関が、「性暴力・性被害」を主訴とする相談の中で、痴漢相談に対応している。だが、痴漢被害の多さを鑑みれば、痴漢相談をワンストップで受け付ける相談窓口機能の構築にも検討の余地がある。
- 相談支援機関等からは、その際にも、どのくらいの数の痴漢被害者が、どのような相談ニーズ（例：話を聞いてほしい、アクションを取りたい等）を有しているかについて、予め検討しておくことが重要であることが示唆された。また、相談しやすい環境づくりに向け、相談窓口の周知、SNS相談の充実、「痴漢は犯罪」との社会的合意の形成等も課題であることが指摘された。

痴漢撲滅に向けた施策検討の方向性①

痴漢撲滅に向けた取り組み：

- WEB調査、相談支援機関等ヒアリング調査からは、痴漢撲滅に向け、効果がありそうな取り組みとして、下記等が挙げられた。
 - 通勤・通学環境：始業時刻の分散、オンライン授業・在宅勤務の定着、オフピーク通勤の普及
 - 防犯ICT：防犯カメラの設置、防犯ブザーの普及、防犯アプリの普及
 - 手続：相談・連絡の簡素化・簡略化、匿名で行政の相談窓口へ連絡・相談
 - 被害者・加害者対応：加害者の再犯防止プログラム、被害者カウンセリングの無料化

痴漢撲滅に向けた社会的合意の形成：「痴漢は性犯罪」との認識の浸透

- WEB調査、相談支援機関等ヒアリング調査からは、痴漢撲滅に向け、社会意識の醸成が必要な事項として、下記等が挙げられた。
 - 痴漢は性犯罪という認識を広めること
 - 被害者が責められない社会を実現すること
 - 周囲の人にも当事者という認識を広めること
- 特に、痴漢の発生場所である電車内での広報（広報媒体の活用等）が重要との意見がみられた。
- また、若年層への周知に際しては、SNS動画による広報（YouTube、TikTok等）の効果が高いことが指摘された。

痴漢撲滅に向けた施策検討の方向性②

痴漢撲滅に向けた検討の方向性・施策例：①予防、②早期対応、③伝達・援助、④連絡・相談の4分野から検討

- これまでの考察から、痴漢撲滅に向けた施策検討の方向性と施策例を下表にまとめた。

フェーズ	①予防 “痴漢についてよく知る”	②早期対応 “痴漢があっても続かせない”	③伝達・援助 “皆で痴漢を止める”	④連絡・相談 “痴漢被害を埋もれさせない”
方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「痴漢は性犯罪、加害者を許さない」メッセージの発信 ・痴漢の手口、発生場所等の情報を周知 ・加害者による加害行為を止める活動の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・痴漢行為をいち早く認識 ・第三者へ知らせる行動等で被害を継続させない 	<ul style="list-style-type: none"> ・痴漢撲滅への考えを有する人々のグループ／ネットワーク形成 ・周囲の人が、痴漢被害者をいち早く認識 ・介入行動で被害を止める／加害者を確保する 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害直後の被害通知行動を促進 ・相談、被害情報報告等に結び付ける ・被害者の心理的ダメージを軽減
主対象	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民全体 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者 ・被害者となる可能性のある方 	<ul style="list-style-type: none"> ・目撃者・居合わせ者 ・目撃者・居合わせ者となる可能性のある方 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者 ・被害者となる可能性のある方
施策例	<ul style="list-style-type: none"> ・「痴漢は性犯罪」との意識醸成 ・痴漢対策・方法の周知 ・痴漢が発生しやすい状況・場所等の情報提供 ・加害者再犯防止プログラムの普及 ・防犯カメラの増設 ・混雑緩和策（始業時刻分散、オンライン授業・在宅勤務、オフピーク通勤等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・痴漢行為の内容・特徴等についての周知 ・痴漢を止めるための行動・方法の周知 ・防犯アプリ・防犯ブザー等の普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・痴漢防止グッズの普及 ・被害者が周囲に被害を伝達する仕組みの構築（心理的負担が低い方法、周囲の人に確証を与えやすい方法・確証を得なくても可能な行動の周知等） ・周囲の人が痴漢を止めるための行動・方法の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・痴漢専門のワンストップ窓口の設置・周知 ・行政におけるSNS相談の充実、痴漢被害の届け出・相談システムの構築（簡易・短時間に連絡できる方法、心理的負担が低い方法等） ・痴漢発生状況、加害者情報等の蓄積・共有 ・心身状態が悪化・重症化した被害者へのカウンセリング拡充

V 有識者提言

前章で提起した4つの施策検討の方向性（①予防、②早期対応、③伝達・援助、④連絡・相談）に関し、有識者から施策展開のポイントについて意見をいただき、提言としてまとめた。

有識者メンバーは下記のとおり（再掲）。

氏名	所属・役職
齊藤 章佳 氏	大船榎本クリニック精神保健福祉部長
齋藤 梓 氏	上智大学総合人間科学部心理学科准教授
島田 貴仁 氏	科学警察研究所 犯罪行動科学部 室長

予防（痴漢についてよく知る）に関する施策展開のポイント①

【前提】責められるべきは痴漢加害者であり、被害者に責任を帰すことは間違っている

- 痴漢被害を引き起こしているのは加害者である。加害者の存在が、痴漢が発生する第一の要因であることは言うまでもない。
- 痴漢被害にあった方が、「周りに言えばよかったのに」、「手をつねってやればよかったのに」、「どうして混んでいる電車に乗ったの？」等と非難され、傷つくことも少なくない。被害者にとって、周囲に助けを求めたり、自衛したりする行動を起こすことは容易ではないことに、思いを巡らすべきである。
- 以下の提言は、痴漢加害を減らすことを目的としたものであり、被害者や周囲の人に責任を帰す考えを全面的に否定するものであることをご理解いただきたい。

若年層への包括的性教育の普及推進が、痴漢防止への意識醸成へとつながる

- 本調査において、10代は痴漢被害にあいやすい状況にある中で、被害を大したことではないと思ったり、被害を回避する行動や届け出・相談等の行動を取っていなかったりする方が比較的多い状況が明らかになった。この点は社会にとって、都にとって大きな課題と言える。
- 中高生等においては、痴漢にあうことが日常茶飯事になっており、“特別なことではない”、“仕方ない”等の空気感になっている状況は、以前も現在も変わらないのではないか。このような状況で、自分だけ被害を訴えるのは恥ずかしい、自分だけ騒いでもと思われたくない等、同調圧力に配慮して訴え出ない被害者も少なくないと思われる。
- 日本人は幼少期から、包括的な性教育の中で“自分の身体は自分のものである”という性的自己決定権を学んできておらず、そのために他人に不当に触られることに対し、自分が不当な行為をされたという反応より、自分が声をあげると周囲が困るのではないか、自分が我慢すればこの場が治まるのではないか等の思考となる被害者は多い。

予防（痴漢についてよく知る）に関する施策展開のポイント②

（つづき）若年層への包括的性教育の普及推進が、痴漢防止への意識醸成へとつながる

- “自分の身体は自分のもの”との認識を持ち、プライベートゾーンを不当に触られたら、それは権利の侵害であり、反発・抵抗をしてよい、SOSの声をあげてもよいこと、また、反発・抵抗ができなかったとしてもそれも当然のことであり、あなたが悪いわけではないこと等も含めた包括的性教育を、子どもの頃から行っていくことが必要である。
- 学校教育において性暴力を取り上げにくい状況があるならば、国や自治体がこれを主導していくことにも検討の余地がある。国や自治体が教育プログラムやパッケージを開発し、学校等に提供することで、学校における痴漢防止教育等の普及推進に寄与するならば、非常に意義深い。
- 痴漢被害のリスクが高い若年層、とりわけ10代を、痴漢被害から守る対象群として明確に位置づけ、重点的に教育・啓発を進めていくことが必要である。

【備考】痴漢は女性だけの問題ではないことの周知

- 男性も痴漢被害の対象となっていることは、もっと知られて然るべきである。また、性別で被害内容は大きくは変わらない中で、男性被害者は、周りに気づかれなくてよかった、自分で解決する問題だと思ったと考えがちで、周囲に助けを求めない傾向がある。
- その背景には、社会が男性の痴漢被害を想定しきれていないことが影響していると思われる。
- 教育・啓発においては、痴漢は女性だけの問題でないことを意識する必要がある。

予防（痴漢についてよく知る）に関する施策展開のポイント③

痴漢行為を止められない加害者に対し、早期に再犯防止プログラムを提供する

- 痴漢加害者に対しては、刑罰と治療（再犯防止プログラム）の両輪が必要である。
- 性犯罪加害者の再犯防止プログラムの参加者に、痴漢・盗撮の加害者は多い。痴漢・盗撮の加害者に対しては、認知行動療法により加害行為を止め続けることができるが、プログラムの認知が進んでいないこともあり、加害者を参加につなげることが難しい点が課題である。駅等で加害者向けプログラムの紹介等がなされるようになれば理想である。
- 再犯防止プログラムを受けることにより、痴漢行為を止め続けることができることへの社会認識が広がれば、早期発見・早期治療につながるが、現状では加害者が治療につながるまでに平均約8年かかっており、その間にも痴漢行為が繰り返されている。
- 痴漢行為を止められない加害者が、早期に、当り前のように、再犯防止プログラムを受ける社会になることが望まれる。

早期対応（痴漢にあっても続けさせない）に関する施策展開のポイント

被害者が痴漢を止めるための方法を提起・周知し、行動変容につなげる

- 「誰かが行動を起こさない限り、痴漢行為は一定時間継続する」ことは、本調査における重要な気づきである。
- 多くの痴漢加害者は度胸があるタイプではなく、恐る恐る痴漢行為を行っている。臆病で、バレないように痴漢行為に及ぶタイプが多く、少しの介入でも行為を諦める人が多い。一方、相手に反応がなく、成功体験を重ねると、徐々に行為をエスカレートさせていく。
- そのため、被害者が周囲に助けを求めている気配があるときには、加害者は一時的に痴漢行為を止める傾向にある。本アンケート調査でもみられるように、被害者や周囲の人が行動を起こすことで、痴漢阻止へとつながる可能性は高い。
- ただし、多くの被害者にとって、行動を起こすことは容易ではない。また、痴漢を止めるためにどのような行動が有効かについては明らかでないところもあり、今後の研究が待たれる。そのような現状においては、周囲の人の注意を引く（例：音を出す、物を落とす、気分が悪くなったふりをしてしゃがみ込む等）等の低リスクと思われる行動を取ることが、総合的にみて事態を好転させる／深刻化させないと言えるかもしれない。

伝達・援助（皆で痴漢を止める）に関する施策展開のポイント①

被害者が被害を知らせやすく、周囲の人が被害を確認しやすい仕組みを作ることで、援助活動を促進する

- 本アンケート調査からは、電車内で周囲の人が痴漢行為に気づいたケースは1割弱にとどまった。一方、被害に気付いた人のうち何らかの介入行動を取った人の割合が6割弱に達し、希望が持てる結果となった。また、加害者は第三者の介入があった場合に被害を止める傾向があることも明確になった。
- 被害者が受けている痴漢行為を、周りの人に気付いてもらうことの重要性は非常に大きい。痴漢を防ぐために行動する第三者（アクティブバイスタンダー）の役割が重要であり、電車利用者に対して、被害者が助けを求めるだけでなく、「あなたが行動することで周りも行動する」ことを伝える意義が大きい。
- 第三者の役割を重視し、第三者が痴漢に気づき、確認する仕組みを作ることが重要である。または、確認を持たなくても、さりげない行動によって痴漢を「止めさせる」という視点をもつことも考えられる。
- 痴漢抑止バッジは、着けている人が痴漢撲滅に関心を持つ（アクティブバイスタンダーとなりうる）ことを表明するものであり、認知度と着用者が増えれば、被害者にとってはSOSが出しやすい環境となる。また、DigiPoliceのように、痴漢被害を周囲に知らせ、助けを求める機能を有したアプリもある。このようなツールも活用し、被害者が被害を知らせやすく、周囲の人が被害を確認しやすい仕組みを作り、援助活動を促進することが急務である。
- このような仕組みやアプリを検討する際に、様々な方のアイデアを活用することも有効である。痴漢抑止バッジには、デザイン系の学生から多くのデザイン応募が寄せられているし、痴漢防止アプリを開発している学生はどのような音源を発信すると痴漢抑止に効果的かを検討している。どのような仕組みやアプリが加害抑止になるかについて、更生中の加害者の意見を踏まえて検討する取組もみられている。
- 併せて、痴漢にあって困っている時には周囲が助けてくれるという他者に信頼感が持てるような社会をつくっていくことが重要である。被害にあっても周囲は助けてくれないと思えば、被害者は行動に移すことができない。

伝達・援助（皆で痴漢を止める）に関する施策展開のポイント②

周囲の人が痴漢を止めるための方法を提起・周知し、介入行動を促進する

- 加害者は第三者に介入されることを最も嫌う。被害者・加害者の二者関係に、第三者が介入すると、逮捕の確率が格段に高まるためである。その意味でも第三者の行動は重要である。痴漢と気づきながら声をあげない／対応をとらないことは、加害行為に間接的に加担する行為と等しいといった社会認識が広がるとよい。
- ラッシュ時の電車内には男性が多く、また加害者にも男性が多いため、第三者による介入においては、男性が反応することが重要である（女性による介入はハードルが高いこともある）。まずは、女性への被害が多いことを踏まえ、その友人である女性に訴求することも考えられるが、いかに男性に行動変容の動機づけを作り、それを促していくかが重要である。
- 一方、痴漢に気づいた第三者も、痴漢の確信が持てない、介入するのは勇気が要る等の状況に置かれ、行動することは決して容易ではない。
- 周囲の人による介入には、被害者にアプローチするパターンと、加害者にアプローチするパターンがあるが、前者の方がハードルは低いと考える。被害者に対して「大丈夫ですか」、「具合が悪いですか」等と声がけするのであれば、行動しやすいかもしれない。
- 周囲の人が「大丈夫ですか」と被害者に声をかけるだけで、加害者の痴漢行為を止め、被害者の孤立を防ぐ効果はある。介入に向けたハードルが比較的低い、声がけを効果的に行うことを最初の目標としてはどうか。

連絡・相談（痴漢被害を埋もれさせない）に関する施策展開のポイント①

痴漢は犯罪であり、相談すべき被害であるとの社会的意識醸成はすぐにでも始められる

- 痴漢は日本で最も多い性犯罪と言えるが、相談等につながるケースは非常に少ない。
- 痴漢被害は大したことではなく、相談することでもないと思っている人が多い。社会全体において、痴漢は重い犯罪であるとの認識が薄く、他の性被害と比べて軽視されている状況も、被害者が被害を訴えにくくする要因の一つになっているのではないか。
- 被害者の中にも相談したかったと思っている人もいる。そのような人が相談につながることは非常に重要である。
- 被害者が被害を潜在化してしまうことにより、恩恵を受けるのは加害者である。被害を相談・報告することで、次の被害者を生まないための一助になることも伝えていくことが重要である。
- 痴漢は犯罪であり、相談すべき性被害であるとの社会意識を醸成する活動は、すぐにでも始められることである。

連絡・相談（痴漢被害を埋もれさせない）に関する施策展開のポイント②

痴漢に関するワンストップ相談窓口の設置と即時対応

- 都内には性被害、女性、若者等を対象とした複数の相談窓口が存在するが、「痴漢」の語を用いた窓口はないため、痴漢被害者はどこに相談したらよいか迷うかもしれない。痴漢を専門とする相談窓口があってよい。
- 話を聴いてもらうだけで落ち着くケースも多いと考えられるため、専門の相談窓口があると、気軽に相談できてよいのではないか。
- 痴漢にあった時にSNSで相談機関に連絡すれば、相談機関が即応し、具体的アドバイスを行う状況が理想である。即時対応には困難を伴うが、防犯カメラの映像の確保や衣服に付着した加害者DNAにつながる証拠の保全等、痴漢被害に対してはすぐに行動しないと証拠が失われてしまう。
- 被害者の連絡・相談を促進するためには、即時・簡単に連絡・相談できる仕組み、より具体的にはSNSやアプリ等を用いた非対面の仕組みがあるとよい。被害者が既存の相談支援機関に直接つながるのは難しいため、このようなワンストップ窓口を通じて、被害者と相談機関の間をつなぐことが望まれる。
- 内閣府の性暴力SNS相談窓口「Cure Time」では、相談員が相談者のニーズを把握し、アセスメントを行い、対応できる場合はCure Time内で完結させ、対応できない場合は地域資源や外部機関につなげている。痴漢被害についても、このような相談窓口の一本化と、外部機関へのつなぎ機能ができるとよい。
- 現在の相談支援機関には、SNS相談に慣れていない相談員も多い。いずれかの機関が一元的にSNS相談機能を担う場合、しっかりとした教育が必要となる。また、窓口がひっ迫する程に相談件数が増える場合には、人員配置・体制拡充等の検討が望まれる。
- 痴漢被害者が相談窓口で連絡する場合、被害現場で連絡先を検索する行動がうかがえる。検索時に相談窓口が上位に出てくる工夫も必要である。

連絡・相談（痴漢被害を埋もれさせない）に関する施策展開のポイント③

医療支援が必要な相談者への迅速な対応

- 駅職員に相談してくる若年者の3割程度が極度の動揺・パニック状態にあるとの事実が痴漢被害の真実を表している。痴漢被害は決して甘いものではなく、深刻になりうる。
- 痴漢被害を受けたことで深く傷つき、生活に支障が出る人もいる。痴漢専門の相談窓口等を通じて、このようにケアを必要とする人を、相談機関につなぐことができるかがポイントになる。

痴漢被害情報や加害者情報の蓄積・提供が、乗客による痴漢回避や、関係者による痴漢対策に資する

- 痴漢の被害者やその保護者は、被害にあいやすい場所・状況等についての情報を知らない可能性も高い。本調査でも、痴漢発生リスクの所在、痴漢を止める対応の事例等、有用なデータ・情報が得られている。
- 痴漢のような性犯罪においては、被害者の告発により初めて加害者の輪郭が明らかになる。東京都において、加害者情報を共有する取組を行うとともに、組織横断的に行えるようになるとうい。
- 痴漢被害を報告したいと考える被害者はある程度いると思うが、被害を報告した結果、施策に有効活用される等、達成感があると報告しやすくなる。
- このような情報を整理・発信し、被害者や市民の痴漢回避行動に資するとともに、関係機関による犯罪機会論に基づいた対策検討の基礎資料として充実させていくことが重要である。

連絡・相談（痴漢被害を埋もれさせない）に関する施策展開のポイント④

痴漢被害の連絡・相談に関する学校や職場等の理解の促進

- 警察等に届け出る被害者が少ない中、誰かに相談できたのにそれが届け出につながっていない状況は深刻である。
- 被害者が児童の場合、被害を親や先生にはなかなか言えない。現実的には、友人がゲートキーパーになり、然るべき大人につなげることが望ましく、そのための教育・啓発が重要である。また、痴漢被害の相談を受けた学校の先生は、被害者や保護者とも相談の上、被害を警察や駅職員に通報することを目指してほしい。
- 痴漢被害の届け出等を行う際には、被害者も第三者も、かなりの時間を要することになり、学校や仕事に遅れることになるが、それに対する遅延証明書も発行されない現状には改善の余地がある。学校においても授業に出れなかった時間を公欠扱いする等の対応を行わなければ、被害者は声をあげない選択をしてしまう。
- 痴漢被害防止にかかる遅刻を認める社会になることで、またそのような行動を評価する社会になることで、被害者も第三者も声をあげやすくなる。学校や企業をはじめ社会の理解を促進し、社会構造を変えるソーシャル・アクションを進めていくことが重要である。

令和5年度 痴漢被害実態把握調査 報告書

2023年12月

調査企画：東京都 生活文化スポーツ局 都民安全推進部 治安対策課

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 東京都庁第一本庁舎北側34階

連絡先 電話：03-5388-2828

調査実施：株式会社リベルタス・コンサルティング

〒102-0085 東京都千代田区六番町2-14 東越六番町ビル

連絡先 電話：03-3511-2161 メール：humancare@libertas.co.jp